

【理事会の開催状況】

(第1回)平成30年4月24日(出席理事12名)

提案議案	議案第1号	・困りごとお助け隊事業実施要綱の一部改正について
	議案第2号	・人員配置変更に伴う各運営規程の一部改正について
	議案第3号	・第41回定時評議員会の開催日程について

(第2回)平成30年5月24日(出席理事11名)

提案議案	議案第4号	・平成29年度朝来市社協事業活動報告について
	議案第5号	・平成29年度朝来市社協社会福祉事業区分資金収支決算について
	議案第6号	・平成29年度朝来市社協収益事業区分資金収支決算について
	議案第7号	・準職員給与規程並びに非常勤職員給与規程の一部改正について
	議案第8号	・理事交替に伴う後任理事候補者の選任について

(第3回)平成30年6月26日(出席理事12名)

提案議案	議案第9号	・平成30年度共同募金「地域目標額」設定に係る事業充当計画について
	議案第10号	・評議員候補者を評議員選任・解任委員会へ推薦することについて
	議案第11号	・配食サービス事業実施要綱一部改正について
	議案第12号	・重要事項説明書の一部改正について

(第4回)平成30年7月26日(出席理事11名)

提案議案	議案第13号	・評議員候補者を評議員選任・解任委員会へ推薦することについて
	議案第14号	・障害者(児)自立支援施設あさごふれ愛の郷のぞみ実施要綱の制定について

(第5回)平成30年8月28日(出席理事12名)

提案議案	議案第15号	・訪問介護事業所の経営改善計画の承認について
	議案第16号	・非常勤職員給与規程の一部改正について
	議案第17号	・あさまる支援事業実施要綱の一部改正について

(第6回)平成30年9月20日(出席理事11名)

提案議案	議案第18号	・平成30年度共同募金運動の推進について
	議案第19号	・第42回評議員会の開催日程について

(第7回)平成30年10月30日(出席理事12名)

提案議案	議案第20号	・あさごふれ愛の郷相談支援事業所の運営規程の一部改正について
	議案第21号	・小規模多機能施設の消防設備(自動火災報知設備)等の設置に関わる入札指名業者の決定について

(第8回)平成30年11月20日(出席理12名)

提案議案	議案第22号	・社会福祉事業区分及び収益事業区分会計第一次補正予算について
	議案第23号	・準職員給与規程並びに非常勤職員給与規程の一部改正について

(第9回)平成31年1月29日(出席理事12名)

提案議案	議案第24号	・心配ごと相談所運営方法の変更について
	議案第25号	・第43回評議員会の開催日程について
	議案第26号	・小規模多機能施設の消防設備(自動火災報知設備)等の設置に関わる工事請負契約について

(第10回)平成31年2月26日(出席理事12名)

提案議案	議案第27号	・非常勤職員給与規程・準職員給与規程の一部改正について
	議案第28号	・心配ごと相談所運営規程の廃止について
	議案第29号	・福祉なんでも相談窓口設置・運営規程の制定について

(第11回)平成31年3月14日(出席理事12名)

提案提案	議案第30号	・あさごふれ愛の郷就労継続支援B型事業の再編について
	議案第31号	・地域応援助成事業実施要綱の一部改正について
	議案第32号	・平成31年度朝来市社協活動基本方針と活動計画について
	議案第33号	・平成31年度朝来市社協社会福祉事業区分資金収支予算について
	議案第34号	・平成31年度朝来市社協収益事業区分資金収支予算について

【理事名簿】

平成31年3月31日現在

選出区分	氏名	選出区分	氏名
区長会	椿野純夫	社協委員	稲津繁美
民生児童委員協議会	日下部謙一	社協委員	朝岡俊則
学識経験者	伊藤宣廣	社協委員	村上政江
学識経験者	福富宏三	社協委員	垣尾博子
社協委員	日下部誠	社協委員	中島隆幸
社協委員	柴田一明	社協委員	椿野幸子

【監事名簿】

平成31年3月31日現在

選出区分	氏名	選出区分	氏名
学識経験者	大橋達男	学識経験者	楠成樹

【評議員会の開催状況】

(第41回)平成30年6月7日(出席評議員12名)

提案議案	議案第1号	・平成29年度朝来市社協事業活動報告承認について
	議案第2号	・平成29年度朝来市社協社会福祉事業区分資金収支決算承認について
	議案第3号	・平成29年度朝来市社協収益事業区分資金収支決算承認について
	議案第4号	・理事交替に伴う後任理事選任について

(第 42 回)平成 30 年 11 月 29 日 (出席評議員 12 名)

提案議案	議案第 5 号	・平成 30 年度朝来市社協社会福祉事業区分第一次補正資金収支予算承認について
	議案第 6 号	・平成 30 年度朝来市社協収益事業区分第一次補正資金収支予算承認について
	議案第 7 号	・次期理事及び監事選任に向けた選考委員選任について

(第 43 回)平成 31 年 3 月 22 日(出席評議員名)

提案議案	議案第 8 号	・平成 31 年度朝来市社協活動基本方針と活動計画について
	議案第 9 号	・平成 31 年度朝来市社協社会福祉事業区分資金収支予算について
	議案第 10 号	・平成 31 年度朝来市社協収益事業区分資金収支予算について

【評議員名簿】

平成 31 年 3 月 31 日現在

選 出 区 分	氏 名	選 出 区 分	氏 名
ボランティア代表	掃 本 美 千 子	社 協 委 員	雑 賀 睦 子
ボランティア代表	吉 井 忠 大	社 協 委 員	中 島 正
ボランティア代表	松 田 千 草	社 協 委 員	清 田 牧 男
ボランティア代表	清 瀬 妙 兮	社 協 委 員	足 立 和 子
各 種 団 体	伊 澤 健	社 協 委 員	湯 口 守
福 祉 施 設	中 島 浩 之	社 協 委 員	枚 田 信 章
社 協 委 員	中 島 美 千 子	社 協 委 員	山 本 利 近
社 協 委 員	白 瀧 迪 子	社 協 委 員	尾 崎 義 治
社 協 委 員	中 島 秀 明	社 協 委 員	藤 本 三 郎

【監事監査】

・平成 29 年度決算監査実施・・・平成 30 年 5 月 17 日

《監査結果》

監査項目	監査結果及び指示事項
理事会	活発な意見と熱心な協議姿勢は高く評価できる。職員の確保が難しくなっている状況下、各部門の管理職の報告により、活動状況、問題点、悩み等について理事会でも問題点を共有する必要性を感じる。
評議員会	地区社協より選ばれた社協委員が評議員の 3 分の 2 を占めており定数減となったが、委員会の出席率も含め地域福祉の推進に向けた取組姿勢は高まっている。
人事管理	新しい人事考課制度であるキャリアパス制度の導入によりキャリアアップの道筋や基準、条件が明確化されるため、モチベーションの向上につながる事が期待できる。毎月の「職員気づき報告」は自分の意

	思、意識を表現することによる担当職務遂行意欲高揚の効果は大きいと思われる。
運営管理	新規採用が難しく派遣職員の割合が増加する事はやむを得ないが、人材育成の観点からプロパーの確保に向けた努力が必要。又人材確保見通しを踏まえ将来に向けて事業選択の検討も必要と思われる。
業務管理	地域福祉の推進に必要な財源確保の為、介護保険事業収入による収益確保に向け更なる効率化努力が期待される。
そ の 他	地域福祉推進に向け、地区社協の役割や立ち位置を明確にし、協議体として機能するため、各地区におけるリーダーを社協委員から選任し、（評議員を充てる事も一つの方法）区長、民生委員等地域の関係者の参画等を求める体制の整備を検討する事も必要と考える。

・監事は全理事会に出席し、運営状況等監査

【外部監査】

松田公認会計士事務所と顧問契約締結

契約内容 （税務顧問・会計顧問・記帳代行・決算書の作成・その他顧問
毎月/決算監査）

【実地指導監査】

○地域密着型介護サービス事業所 （実地指導）

実施日 平成 31 年 2 月 13 日

《小規模多機能型居宅介護事業所 小規模多機能施設ひなたぼっこ》

指摘事項・・・特になし

○地域密着型介護サービス事業所 （実地指導）

実施日 平成 31 年 2 月 19 日

《小規模多機能型居宅介護事業所 小規模多機能施設おくらべ》

指摘事項・・・特になし

【指定管理】

朝来市公の施設に係る指定管理者の指定を受けた

施 設 名	
あさごふれ愛の郷 YOU・愛センター	認知症対応型通所介護宅老所ふらっと
朝来老人福祉保健センター	

【委員会活動】

委 員 会 名	開 催 日	回数
第三者委員会	6/5	1 回
役員選考委員会	3/13	1 回
発展計画等評価・検証委員会	9/25・10/11・11/1・1/23・2/28	5 回
ボランティア市民活動センター運営委員会	9/27	1 回
小規模多機能施設えんや運営委員会	4/24・6/26・8/29・10/30・12/18・2/19	6 回
小規模多機能施設おくらべ運営委員会	4/25・6/27・8/22・10/24・12/19・2/13	6 回
小規模多機能施設ひなたぼっこ運営委員会	4/25・6/15・8/22・10/17・12/21・2/22	6 回
小規模多機能施設ひばり運営委員会	4/26・6/27・8/29・10/24・12/19・ 2/21	6 回
宅老所ふらっと運営委員会	8/30・2/14	2 回
事業部会	6/26	1 回

【朝来市共同募金委員会】

委 員 会 名	開 催 日	回数
共同募金推進員会	8/6	1 回

【基金の運用・管理】

(単位：円)

基 金 名	金 額	基 金 名	金 額
財政調整積立預金	18,624,117	福祉基金積立預金	18,085,366
備品購入積立預金	20,102,652	虹の会積立預金	850,807
修繕積立預金	3,536,015	収益事業備品積立預金	2,903,677

【定款及び諸規程の整備・要綱の整備】

日 時	開催回数	内 容
平成 30 年 4 月 24 日	第 1 回 理事会	・ 困りごとお助け隊事業実施要綱の一部改正について ・ 人員配置変更に伴う各運営規程の一部改正について
平成 30 年 5 月 24 日	第 2 回 理事会	・ 準職員給与規程並びに非常勤職員給与規程の一部改正について
平成 30 年 6 月 26 日	第 3 回 理事会	・ 配食サービス事業実施要綱一部改正について
平成 30 年 7 月 26 日	第 4 回 理事会	・ 障害者(児)自立支援施設あさごふれ愛の郷のぞみ実施要綱の 制定について

平成 30 年 8 月 28 日	第 5 回 理事会	・ 非常勤職員給与規程の一部改正について ・ あさまる支援事業実施要綱の一部改正について
平成 30 年 10 月 30 日	第 7 回 理事会	・ あさごふれあいの郷相談支援事業所の運営規程の一部改正について
平成 30 年 11 月 20 日	第 8 回 理事会	・ 準職員給与規程並びに非常勤職員給与規程の一部改正について
平成 31 年 2 月 26 日	第 10 回 理事会	・ 非常勤職員給与規程・準職員給与規程の一部改正について ・ 心配ごと相談所運営規程の廃止について ・ 福祉なんでも相談窓口設置・運営規程の制定について
平成 31 年 3 月 14 日	第 11 回 理事会	・ 地域応援助成事業実施要綱の一部改正について

【職員資格取得】

主な福祉関係等資格者数

平成 31 年 3 月 31 日現在

資 格 種 類	28 年度	29 年度	30 年度	資 格 種 類	28 年度	29 年度	30 年度
社会福祉主事	21 人	21 人	19 人	訪問介護(1 級・2 級) (介護職員初任者研修課程含)	63 人	61 人	57 人
介護福祉士	46 人	43 人	45 人	介護支援専門員	14 人	15 人	14 人
社会福祉士	5 人	5 人	6 人	看護師	8 人	8 人	7 人
保育士	13 人	11 人	12 人				

【資産取得状況】

○建物附属設備

資産名	取得価格	所 属	備考
自動火災報知設備	131,220 円	小規模多機能施設ひなたぼっこ	
自動火災報知設備	221,940 円	小規模多機能施設おくらべ	
消防署通報設備	270,000 円	小規模多機能施設おくらべ	
自動火災報知設備	221,940 円	小規模多機能施設ひばり	
自動火災報知設備	157,140 円	小規模多機能施設えんや	
合計	1,002,240 円		

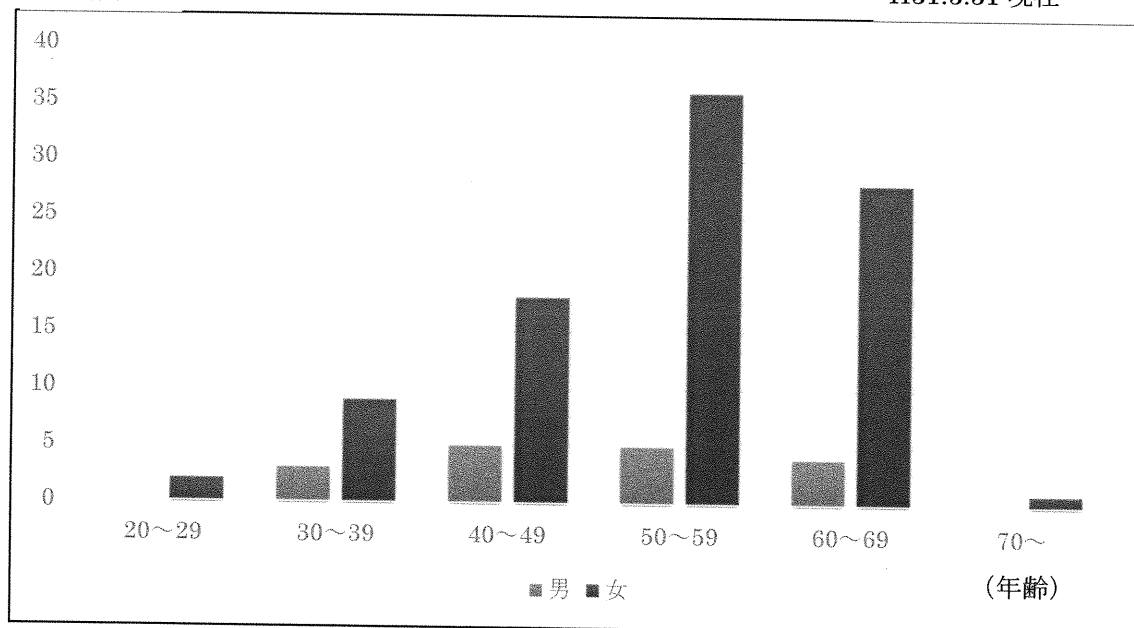
○器具・備品

資産名	取得価格	所 属	備考
パソコン一式	228,960 円	本部	2 台
	228,960 円	いきいき介護センター	2 台
ガスバーナー・鍋一式	117,230 円	本部	災害時用備品
シャワーストレッチャー	311,040 円	デイサービスセンターかしのき園	
空調設備一式	2,500,000 円	デイサービスセンターかしのき園	エアコン 5 台
冷蔵庫	134,000 円	小規模多機能施設ひばり	
車椅子介護浴槽	584,020 円	小規模多機能施設ひばり	
A E D(自動体外式除細動器)	280,800 円	小規模多機能施設おくらべ	福祉バザー収益
A E D(自動体外式除細動器)	280,800 円	小規模多機能施設えんや	福祉バザー収益
留袖	421,200 円	朝来地域センター	3 点
振袖	939,600 円	朝来地域センター	5 点
合計	6,026,610 円		

職員男女別年齢階層一覧（全職員）

（人数）

H31.3.31 現在



(単位：人)

年齢	男	女	総数
20～29	0	2	2
30～39	3	9	12
40～49	5	18	23
50～59	5	36	41
60～69	4	28	32
70～	0	1	1
総数	17	94	111

	平均年齢
男性	50 歳
女性	53 歳
全体平均	52 歳

※職員総数は、昨年と比較して
13 名減。
平均年齢は、昨年と比べ 1 歳高
くなっている。

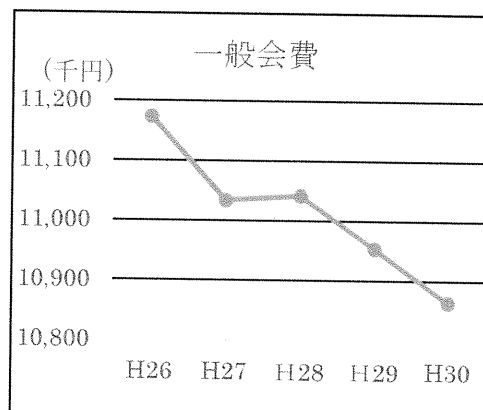
【介護職員処遇改善加算並びに福祉・介護職員処遇改善加算】

長期的に介護人材の確保・定着の推進を図るため、導入された「介護職員処遇改善加算（介護保険）」並びに「福祉・介護職員処遇改善加算（障害福祉サービス）」制度を当会では、全職員を対象に法人財源も補填し処遇を改善する取り組みを継続してきた。今年度は最上位の加算取得するため、キャリアパス（職業経歴上の道筋）制度を構築し、特別手当、特別昇給、資格手当、職能手当などの手当の充実により更なる処遇の向上を目指し取り組んだ。

【社協会費】

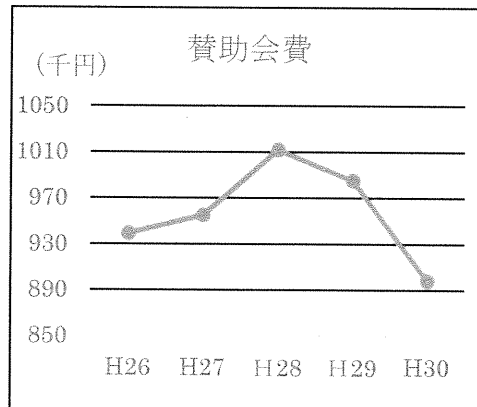
《一般会費》 一口：1,200 円

地域 センター名	地区数	加入口数	会費額 (30 年度)
生 野	20	1,338.2	1,605,800
和 田 山	73	4,403.9	5,284,700
山 東	40	1,483.8	1,780,600
朝 来	31	1,829.0	2,194,800
計	164	9,054.9	10,865,900



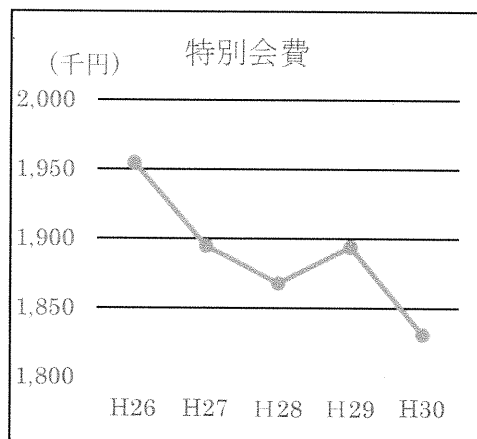
《賛助会費》 一口：3,000 円

区 分	加入口数	会費額 (30 年度)
民生児童委員	139	417,000
市 役 所	27	81,000
職 員	77	231,000
そ の 他	56.3	169,000
計	299.3	898,000



《特別会費》 一口：5,000 円

地域センター名	加入口数	会費額 (30 年度)
生 野	73.2	366,000
和 田 山	124.6	623,000
山 東	67.2	336,000
朝 来	92.2	461,000
市 外	9	45,000
計	366.2	1,831,000



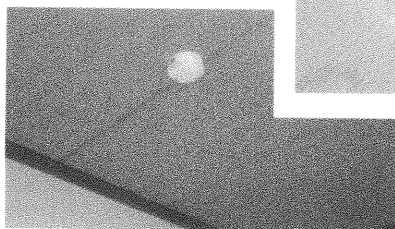
【小規模多機能施設地域密着型施設の自動火災報知設置工事】

消防法施行令改正に伴い宿泊利用のある小規模多機能型居宅介護施設において「自動火災報知設備」並びに「消防機関へ通知する火災報知設備」の設置が必要となったため、地域介護・福祉空間整備等施設整備事業の補助を受け、次のとおり設置した。

※設置した施設

施設名	設備	設置数	事業費	補助金
ひなたぼっこ	・ 自動火災報知設備	8 箇所	147,420 円	120,000 円
おくらべ	・ 自動火災報知設備 ・ 消防機関へ通知する火災報知設備	15 箇所 一式	529,740 円	529,000 円
ひばり	・ 自動火災報知設備	15 箇所	238,140 円	225,000 円
宅老所えんや	・ 自動火災報知設備	10 箇所	173,340 円	150,000 円
合計			1,088,640 円	1,024,000 円

自動火災報知設備



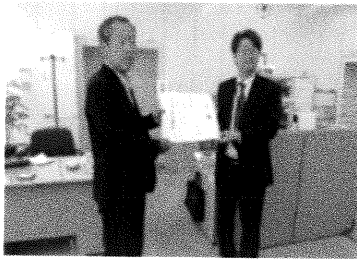
消防機関へ通知する
火災報知設備



【各種寄付・助成金】

次の企業・団体より社会貢献として次の物品等を恵贈頂いた。

ご寄付者	金額	配置・設置先	内容
株式会社ダイナム 兵庫和田山店 様	—	社協高齢者施設 6 施設 あさごふれ愛の郷 5 施設	・ノンフライオーブン ・ハンディークリーナー ・日用雑貨品等 85 点
株式会社タクミナ 生産本部 様	—	社協高齢者施設 6 施設 あさごふれ愛の郷 5 施設	・ミネラルウォーター 330 本 ・ビスケット 101 缶
あいおいニッセイ 同和損害保険株式会社 様	—	本部	・車いす 1 台
イオンリテール株式会社 イオン和田山店 様	125,000 円	あさごふれ愛の郷 5 施設 (イエローレシートギ ャンペーン)	・ホリボート ・CD ラジカセ ・食器乾燥機 ・カーペット・マット ・扇風機 ・調理用具 ・寝具 等
特定非営利活動法人 リョービ社会貢献基金 生野部会 様	186,106 円	小規模多機能施設 ひなたぼっこ あさごふれ愛の郷 かがやき	・色鉛筆 ・ハンドベル ・メンタルケア用おしゃ べり人形 ・立ち上がり補助マット ・ステンレス製作業台
ふるさと朝来 チャリティゴルフ大会 様	90,000 円	あさごふれ愛の郷 かがやき	オートミキサー 2 台 スケール 1 台



多くの企業様・団体様より福祉向上の為に、多大なご協力を頂いており、これらについては、社協だより・ブログ等で広報した。

【収益事業】（昭和51年開始）

衣裳貸出事業

市民の生活改善の一環として朝来地域センターで冠婚葬祭に関わる衣裳の貸し出し事業を展開。この事業は県内社協では3市（相生市・赤穂市・朝来市）、1町（香美町）が行っている。

◇H30年度 事業実績

貸出品目	H28 件数	H29 件数	平成30年度	
			件数	利用金額(円)
振袖	33	39	25	1,576,000
留袖	77	52	76	1,101,000
モーニング	50	36	51	163,200
喪服	17	10	6	25,200
長襦袢	67	40	74	74,000
礼服	22	3	3	9,600
草履・バッグセット	59	38	50	175,000
その他	51	36	50	179,000
貸出合計	3,946,900 円	3,695,100 円	3,303,000	

◇成人式用振袖の予約について（平成30年度 予約件数 21件）

成人式明け1月29日から随時、翌年の予約を受付しました。

◇衣裳価格表

留袖	4,200円 ～ 20,000円
振袖	42,000円 ～ 72,000円
モーニング・礼服	3,200円
喪服	4,200円

衣裳保有枚数

(H31.3末現在)

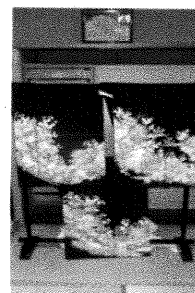
留袖 125着
振袖 106着
色留袖 11着
モーニング 17着
お宮参り着 7着
留袖帯 83本
振袖帯 107本
喪服(夏)(冬) 15着

その他、小振袖・袴・草履バック多数保有

※ 今年度から 新作の振袖（5枚）留袖（3枚）、草履バッグセットも購入し、品ぞろえ・サービスの充実に努めた。

◇ポイント

- ・他の業者より品質・格安でお得。
- ・成人式の振袖ご予約で、もれなく足袋プレゼント。
- ・クリーニングが不要でお手軽に返却できる。



【職員研修】

研修名：新任職員研修

平成 30 年 4 月 13 日、新任職員研修を開催。講師は法人管理職。社会人としての接遇マナー・コミュニケーション・社会人として意識改革を学んだ。また、社協職員としての気づきの力の大切さを、例題を使い研修。対象者は 5 名。

研修名：KYT（危険予知トレーニング）研修

6 月 26 日、7 月 24 日の 2 日に分け、係長、施設長以上を対象の合同セクション会議で KYT（危険予知トレーニング）研修を行った。講師は、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社、姫路支店但馬支社の小林氏、株式会社山陰オアシスの藤原氏。様々な事故があることを認識、想定し、介護事業者として介護事故ゼロに近づけるためのリスクマネジメントについて研修。

KYT（危険・予知訓練）：現場に潜む危険を発見、解決し未然に事故を防ぐための訓練

研修名：第 6 期 OJT 担当者養成研修

新任職員を対象にした OJT 指導（職務を通じた指導・相談）をする人材の育成のため、新たに任命の OJT 担当者 4 名を対象とした研修を開催（全 6 回）。今年度は職員への“メンタルサポート”を心掛けていくことをテーマに、OJT 指導に必要なスキルを身につけるために下記にて学習を進めた。今後は OJT 担当者として新任職員の指導・相談に従事する予定。

日程	6 月 20 日、7 月 18 日、8 月 22 日、9 月 19 日、10 月 17 日、11 月 21 日
テーマの一例	このような様子の職員にはどう関わっていくべきか・仕事の考え方の軸をつくる・仕事の結果の方程式・三方よし・2：6：2 のモデルとその人材育成・腑に落ちる仕事とは・マンネリからの脱却・気づきを高める・コーチング

（職員の感想）

- ・日頃から観察したり、疑問を持つようにしないと、気づきの力が身につかないと思った。

- ・何とかしなければと思いながらも、結局行動が出来ていない点を反省した。
- ・頼まれた仕事は自分の責任感や成長を感じれなかった。自ら進んでする仕事は充実感があり、達成感を得ていた。
- ・職員は「誰かに気付いてほしい」「声をかけてほしい」という気持ちがあるように思う。

研修名：新任職員育成 OJT 研修

新任職員 4 名を対象に年間を通じて「OJT 研修」を実施。OJT 担当者がマンツーマンで指導にあたり、育成計画に則った段階的な育成指導を実施。また OJT 担当者は相談者としての側面も持ち、新任職員のモチベーションの維持や、所属との調整役も担いながら新任職員のフォローに努めた。

【基本的な取り組み】

- ・毎週 1 回のレポート提出
- ・月 1 回の面談の実施

研修名：感染予防研修会

感染対策委員会では、感染予防に関する年間計画を作成し、予防に関する啓発や研修会を実施した。各部署を基本に、5 月から 9 月の間に手洗いチェックーを使用した手洗い研修、10 月には嘔吐物処理に関する研修を昨年度に引き続き実施した。



※手洗い研修（感想）

- ・「洗ったつもりが洗えていないことにショックを受けた。」
- ・「いつもしっかり洗っていると思ったが、あんなに残っていてびっくりした。もっと丁寧に意識しないといけない。」



※嘔吐物処理研修（感想）

- ・いざやってみると手順等の記憶が曖昧で思ったほどできず、繰り返し研修を実施する必要があると思われる。

【第2次地域福祉推進計画・第2次社協発展計画の中間年度における評価、検証】

「第2次地域福祉推進計画」は民間レベルの地域福祉計画であり、「第2次社協発展計画」はその計画を具体的にどう進めるのかという社協の取り組み計画である。

今年度は5か年計画のちょうど中間年度に当たることから、5回に亘る評価検証委員会を開催し、計画どおりに実施されているか、計画の見直しが必要ならどんなことか、新しく加えることはないか等の評価、検証を実施した。

委員会では、地域での困りごとや今後起こるであろうと予想されることなど上げていただき、それらを見直しのキーワードとした。

検証のポイントとしては、この先2年間で実施していく優先順位の高いものを『2つの大きな柱』に据えた。地域でお互いが気に掛け合い、地域でのぷちサロンやミニデイなどで出される“つぶやき”を拾い、つなげることが今後大切な要素になると思われる。

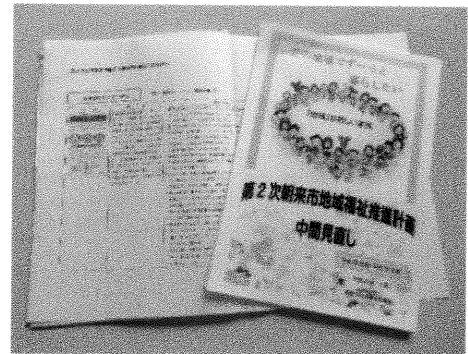
朝来市社協の発展計画の評価については、理事の方々の意見もいただいた。

【第2次朝来市地域福祉推進計画・第2次朝来市社協発展計画評価検証委員名簿】

選 出	氏 名	選 出	氏 名
社 協 委 員	◎日下部 誠	社 協 委 員	○藤井 千賀子
社 協 委 員	清田 牧男	社 協 委 員	垣尾 博子
地域自治協議会	吉成 勝	朝 来 市 役 所	北島 周
朝 来 市 社 協	習田 良子	朝 来 市 社 協	片山 千代子
朝 来 市 社 協	平岡 好美		

◎委員長

○副委員長



【広報・ホームページ】

①広報誌「社協だよりあさご」の発行

平成30年度も、「社協だよりあさご」を年6回発行し、市内全戸（約12,300部）、関係機関等（約400部）配布。毎号、特集記事をはじめさまざまな事業や活動を紹介することで、本会への理解を深めると共に、市民へ地域福祉や地域共生社会の啓発などをおこなった。

ケーブルテレビで放送している地域おたより便『やっとりでえ〜』の内容を、昨年度の第77号（2018.1月号）より、毎号紹介。またイメージ刷新のため、第80号より表紙タイトル「社協だよりあさご」のデザインを変更した。

号 数	発行月	頁数	主 な 内 容
第 79 号	5 月	10	表紙 地域が新しい家族『やっとなるでえ〜』 特集 「地域応援助成事業」始まりました！（「わがまち食堂応援助成」など、新しくなった助成事業を紹介） 平成 30 年度活動基本方針と活動計画の概要、社協会費のお願い、ふれあい講師のご案内 他
第 80 号	7 月	10	表紙 ますます広がる、地域交流の集いの場 特集 「あなたの地域のぷちサロン、好評です！」（活動紹介） 地域応援助成事業の取り組み紹介、ご寄贈を各所よりいただきました、社会福祉協議会の事業所紹介（パート 1） 他
第 81 号	9 月	10	表紙 寺子屋あさご（参加者集合写真：カラー） 特集 「赤い羽根共同募金 10 月 1 日スタート！！」 平成 30 年 7 月豪雨災害ボランティア活動（倉敷市派遣）、ボランティア体験教室「学ボラ」、訪問介護サービス案内、 愛の即売会案内 他
第 82 号	11 月	10	表紙 赤い羽根共同募金 高校生ボランティアの街頭募金活動 特集 いきいき介護センターの事業、取り組み紹介 ボランティア体験教室～学ボラで街頭募金～、あさごふれ愛の郷だより、生活困窮者への食糧支援のお願い 他
第 83 号	1 月	10	表紙 中川こども園のみなさん（集合写真：カラー） 特集 「平成時代もあとわずか…」（市民の皆様に、平成時代の思い出や、新しい年号についてお聞きする） 個人ボランティア活動紹介、あさご交流Café報告、2020 年成人式振袖予約受付のご案内 他
第 84 号	3 月	10	表紙 えんやの楽しいひな祭り、ひなたぼっこの雛飾りなど 特集 総合相談事業の取り組み紹介 2019 年度版社協の助成辞典、赤い羽根共同募金報告 心配ごと相談～常設相談への変更について～ 他

② ホームページ

社協活動の紹介・情報発信の手段としてホームページを公開している。ブログでは、さまざまな地域との関わりや各施設でのご利用者の様子、ちょっとした季節の話題などを紹介し、タイムリーな情報発信や話題の提供に努めた。（投稿回数 245 回：昨年度 220 回）また、地域ミニデイ派遣事業のふれあい講師紹介には専用バナ

一を設け、動画や写真をリンクさせ、「ふれあい講師おすすめ百科」ともリンクさせることで、よりわかりやすくした。

③ 社協リーフレットの発行

朝来市社協の主な事業を紹介したリーフレットを 13,000 部作成し、市民・団体・事業所へ、会費協力依頼時に配布した。

④ 配食サービス・困りごとお助け隊に関するチラシ作成

困りごとお助け隊については、配食サービスのご利用に関わらず 80 歳以上の独居高齢者を対象とし、新たにチラシを作成し利用会員を募集した。

⑤ その他

各地域センターや各施設での行事や事業などの情報を各運営委員やご利用者家族を中心に定期的に情報発信を行った。

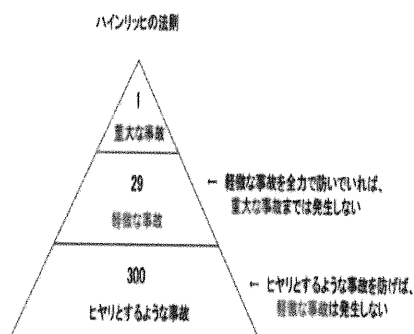
今後も広報誌、社協委員だより、ホームページ、施設や地域センター発行のお知らせ・たよりなどにより連携を図りながら、より有効的でわかりやすい広報活動に努めていきます。

【苦情・事故の状況】

今年度、発生した事故・苦情は以下のとおりであり、事故を防止する対策として、今年度もヒヤリハットの取り組みを全部署で実施した。

- ・事故報告件数 184 件
（一般事故 158 件、車両事故 26 件）
- ・ヒヤリハット 664 件

（平成 31 年 3 月 31 日現在）



① 一般事故の状況

レベル	件数	主なもの
ヒヤリとするような事故・ミス（うっかり）	31	（介護保険・障がい者施設等） ・サービス調整ミス・連絡漏れ ・訪問漏れ・連絡漏れ ・服薬確認ミス ・配食配達ミス ・送迎ミス ・名刺印刷ミス ・事務処理、手続きミス、忘れ ・請求処理ミス ・物品、備品破損他
	60	（事務経理など） ・事務処理・手続きミス ・事務連絡漏れ ・報告・連絡ミス ・請求事務、処理ミス ・個人情報管理ミス他
	13	（その他） ・公用車鍵持ち帰り ・施設内鍵未施錠 ・他機関・部署への迷惑行為他
計	104	

軽微な事故	34	(介護保険・障がい者施設等) ・服薬管理ミス ・医療行為に係る介護ミス ・援助中の転倒 ・援助中の怪我 ・器具設備破損 ・勤務日間違い
	17	(事務経理など) ・金銭処理ミス ・事務処理ミス ・調整不備 ・訪問ミス
計	51	

レベル	件数	主なもの
重大な事故に位置付ける事故	3	(介護保険・障がい者施設等) ・援助中の転倒（ご利用者骨折）
合計	158	

② 車輜事故の状況（状況別事故件数）（平成 31 年 3 月 31 日現在）

状 況	件数	状 況	件数	内 容	件数	内 容	件数
発進時	1	駐停車中	9	衝突	2	施錠	1
後進時	9	その他	1	接触	22		
走行中	6			脱輪	1		
合計			26	合計			26

重大な事故に位置付けるもの：4 件

◇利用者転倒事故（利用者骨折）

- ・ご自分の荷物を最上段の棚から取ろうとされ、バランスを崩され転倒。
- ・泊り利用中、ベッドから降りようとされ転倒。
- ・レクリエーションの時間にバランスを崩され転倒。

・公用車衝突事故

ご利用者をお迎えに行く途中、住宅街を走っていた際に、車庫から出てきた車両に衝突。

③ 各部署でのヒヤリハットの取組み

部署名	件数	部署名	件数	部署名	件数
総務課	61	朝来地域センター	18	ひばり	42
総合支援課地域福祉係	33	かしのき園	62	えんや	128
総合支援課総合相談係	88	いきいき介護センター	32	かがやき	3
生野地域センター	14	ふらっと	62	あさひ	13
和田山地域センター	23	ひなたぼっこ	15	あおぞら	15
山東地域センター	6	おくらべ	42	YOU・愛センター	7
				合 計	664

④ ご意見・苦情状況（平成 31 年 3 月 31 日現在）

事業名（内容）	相手先	件数
宅老所ふらっと（送迎車の運転について）	市民の方より	1
かしのき園（介助方法について）	ご利用者ご家族より	1
	合 計	2

【気づき報告提出と総括】

平成 27 年 3 月から全職員に対して、「1 週間の気づき・良かった記録（報告書）」を事務局長に提出。日常業務の中での「気づき」を継続することで、職員の「問題意識力」「気づき力」を高めることに努め、職場環境の改善に留まらず、業務そのものの改善・改革につなげ、また職員が「気づき」を共有することで法人全体の改善・改革意識を高めることに努めた。

【多機能型障害者施設関係】

平成 26 年度から市役所担当課と調整・協議など行い、「平成 29 年度障害者（児）施設等整備計画書」を兵庫県担当課へ提出し、平成 29 年 1 月 25 日兵庫県庁にて計画書に基づくヒアリングを受け、その後追加資料などを提出しながら調整を行ってまいりましたが、事業の採択には至らず、平成 30 年度も継続した審議となった。

兵庫県からの回答として、平成 30 年度当初予算並びに補正予算についても採択となら理ませんでした。平成 31 年度の採択に向け継続申請となった。

・複合型多機能施設で実施する事業

現在のあさごふれ愛の郷あおぞら、あさひ、かがやきを 1 ヲ所に統合し 4 つの新規事業を加え事業を実施します。

事業名	新規	実施場所
就労継続支援 B 型事業		複合型多機能施設で実施
生活介護事業		複合型多機能施設で実施
就労移行支援事業	○	複合型多機能施設で実施
共同生活援助事業（グループホーム）	○	複合型多機能施設で実施
短期入所支援事業（ショートスレイ）	○	複合型多機能施設で実施
計画相談支援		既存の施設等を利用
地域活動支援センター	○	既存の施設等を利用
放課後等デイサービス		現行のまま(YOU・愛センター)
宿泊訓練		現行のまま(あさごふれ愛の郷のぞみ)

※○＝複合型多機能施設で新規事業として実施する。

空欄は、現在も実施している事業

【業務改善・改革】

・訪問介護事業

記録様式の変更に伴い、現在の業務を見直し過去からの業務方法にとらわれず継続した事業運営が可能な方法を、平成 30 年 4 月から平成 31 年 1 月までに計 10 回の調整会議を開催し協議・検討を実施し業務改善を図った。

☆改革のテーマ「持続可能な事業所への大転換」

☆改革の骨組み

①運営方法の合理化、ヘルパースケジュールの効率化を図る・

- ・ヘルパー活動記録票の改善
- ・待機時間の見直し
- ・ニーズが高い「朝一」「夕方」に極力サービスを集約する
- ・「直行直帰」システムの緩和
- ・ミーティングの多様化に伴う意識の統一、モチベーション向上

②事業所の立ち位置を明確化する。※契約行為の基本

- ・「サービスは契約に基づく」大原則
- ・権利と義務の履行
- ・ヘルパーを疲弊から守る

③職員（ヘルパー）及び運営者側の意識改革を図る。

- ・意欲的ヘルパーを重用する
- ・サービス提供責任者の調整能力を高める
- ・移動時間を最小限にする
- ・支援内容の統一化、徹底を図る
- ・ヘルパー事業所の職員意識から、法人の職員意識へ

・高齢者施設調整会議

小規模多機能施設ひなたぼっこ
小規模多機能施設おくらべ
小規模多機能施設ひばり
小規模多機能施設宅老所えんや
認知症通所介護施設宅老所ふらっと
デイサービスセンターかしのき園

・継続した施設運営を目指し、これまで施設ごとのサービス向上に取り組んできたが、法人施設全体の資質向上を目指し、どこの施設でも同じ意識を持ち統一したサービスが提供できるよう協議検討を実施した。

・平成 30 年 9 月から平成 31 年 3 月まで計 7 回の会議を実施

※平成 31 年度は高齢者施設一体改革会議として継続実施。

・ケース記録の改善 記録様式の変更

- ・管理職（施設長）の役割（部下の育成、危機管理、業務改善など）
- ・本物のプロは「謙虚な心」「共感する心」を忘れない。
- ・上司への報告、連絡、相談の重要性
- ・平準化による業務の改善による省力化
- ・スタンディングミーティングの実施
- ・職員の気づき ムリ、ムダ、ムラをメインにした取り組み
- ・業務内容の点検（タイムスケジュールの確認）

・あさごふれ愛の郷調整会議

（あおぞら、あさひ、かがやき、YOU・愛センター）

障がい者の自立支援を目的とした「複合型多機能施設」に向け、あさごふれ愛の郷の事業並びに業務を点検・再編し、一つの事業所として統一したサービスの提供とご利用者から選ばれる施設を目指すため、協議・検討を実施した。

- ・平成 30 年 9 月から平成 31 年 3 月まで計 10 回の会議を実施

※平成 31 年度はあさごふれ愛の郷一体改革会議として継続実施。

- ・ケース記録の改善 記録様式の変更（平成 31 年 4 月から）
- ・他事業所と差別化を図り、各施設に特色を持たせる経営に変更

「あおぞら」 重度の方を対象

レクリエーション等取り入れながら生活介護に特化

「あさひ」 施設外就労を重点に就労面に特化

「かがやき」 クッキー等自主製品製造販売等

「YOU・愛センター」 早朝・夜間等ご家族にとって利用勝手の良い選ばれる施設

- ・内職作業を重点においた運営から、効率、収入増が見込める施設外就労へ移行
- ・「とまり木サロンわだやま」を、あさごふれ愛の郷の所轄とし、市民の居場所、食事店舗構想に向け取り組む

【災害救援・支援関係】

豪雨・地震による被害に遭われた地域に対し、支援ボランティアの募集・派遣、義援金、職員派遣をとおり支援を行った。

《支援ボランティア》

豪雨により甚大な被害に遭われた倉敷市真備町の被災者を支援する為、全但社会福祉協議会連絡会にてボランティアを募集。8月22日ボランティアバスを運行した。但馬管内より42名のボランティアの皆様・役職員を派遣し、被災世帯宅の清掃等を行った。

《義援金》

朝来市善意銀行・朝来市共同募金委員会より被災された以下の地域に対し義援金をお



届けした。

平成 30 年大阪府北部地震	平成 30 年 7 月豪雨災害	北海道胆振東部地震
50,000 円	100,000 円	100,000 円

《職員派遣》

倉敷市災害ボランティア

センター運営支援の為、職員を派遣。それぞれボランティアニーズの受付・ボランティアの皆様の受け入れ・マッチング・関係機関との調整等を同時期に派遣された近畿ブロック管内の他市町社協職員と協力しながら行った。

月日	7/24～28	8/5～9	8/19～23	8/23～27	9/8～12	9/24～28	9/28～10/2
派遣職員	1 名	1 名	1 名	1 名	1 名	1 名	1 名

計 7 名派遣

【団体事務関係】

市内福祉団体の事業推進を図るため、市の 6 団体（老人クラブ連合会・身体障害者福祉協会・婦人共励会・手をつなぐ育成会・遺族会・子ども会連絡協議会）の事務局を担当し、自主運営を基本として事業全般の運営補助業務を行った。

特記事項

- ① 朝来市手をつなぐ育成会は、輪番により上部団体である兵庫県手をつなぐ育成会の「但馬ブロック保護者研修会」の担当を行う事になり、その運営全般を行った。
- ② 30・31 年度、朝来市身体障害者福祉協会は、但馬地区身体障害者協議会の事務局担当にあたり、各研修会・グラウンドゴルフ大会など事業運営の支援を行った。
- ③ 朝来市老人クラブ連合会では、加入クラブ・会員の減少傾向が続いており、課題解決・改善に向け、市行政にも協力を頂いている。



但馬ブロック保護者研修会
(手をつなぐ育成会)

【善意銀行】

社会福祉協議会には、寄附者のご意思を尊重し、効果的な配分を行う善意の活用窓口として『善意銀行』を設置。

また災害等や生活に困られておられる方へ食糧を寄附。

緊急対策支援

市内の生活困窮者の方へ、歳末助け合い支援としてお米や灯油等の支援を行った。



払出申請状況

内 容	件数	金 額
ベンチ	1 脚	26,784 円
災害義援金（大阪府北部・北海道胆振東部）	2 件	150,000 円
（7 月豪雨災害）	1 件	100,000 円
サマーボランティア体験教室（お米）	1 件	0 円
生活困窮者（お米）	21 件	0 円
生活困窮者（灯油）	7 件	25,920 円
生活困窮者（食糧支援）	14 件	71,764 円
就労支援（備品）	2 件	90,000 円
合 計	48 件	464,468 円

【共同募金関係】

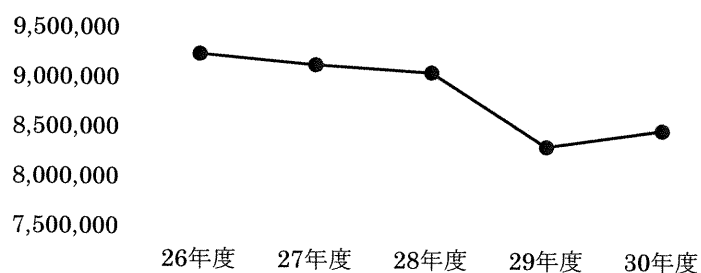
朝来市共同募金委員会の事務局を担当しており、市内での募金運動を展開している。

29 年度に引き続き 1～3 月の広報強化月間では学校募金にご協力頂いた児童・生徒の皆さんに「あかはねちゃんサポーター証明書」を発行する事で啓発活動に努めた。

《30 年度実績》

戸別募金	法人募金	職域募金	学校募金	街頭募金	その他	合計
6,452,829 円	1,534,174 円	149,582 円	132,220 円	120,080 円	108,644 円	8,497,529 円

募金額推移



30 年度は新たな取り組みとして、ぶちサロン・ミニデイ活動に取り組まれるグループに募金をご依頼したり、法人募金の新規開拓に努めた結果、29 年度実績を上回る結果となった。

しかし、共同募金付き自動販売機の推進など新たな取組を今後検討していく必要がある。

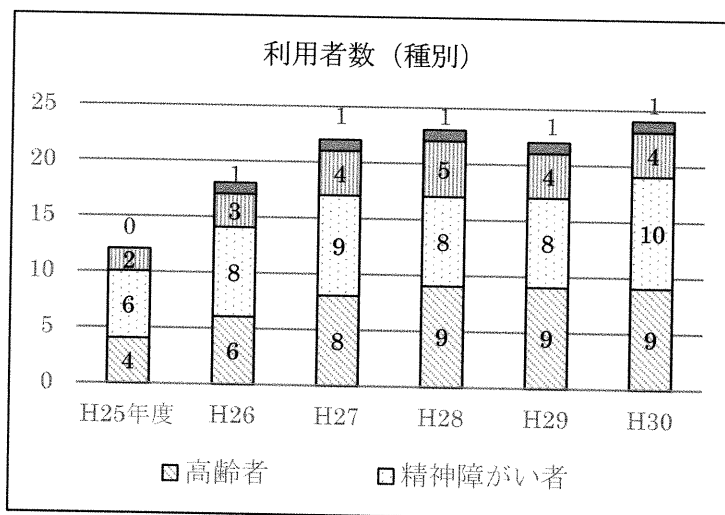
(29 年度共同募金実績により 30 年度に社協へ配分を受けて実施した事業)

配食サービス事業 ほっとコミュニケーション事業 短期宿泊訓練事業 福祉教育活動助成事業 地域とまり木事業 地域応援助成事業 広報・ホームページ活動事業 困りごとお助け隊事業 日常生活支援事業 ボランティアグループ育成事業

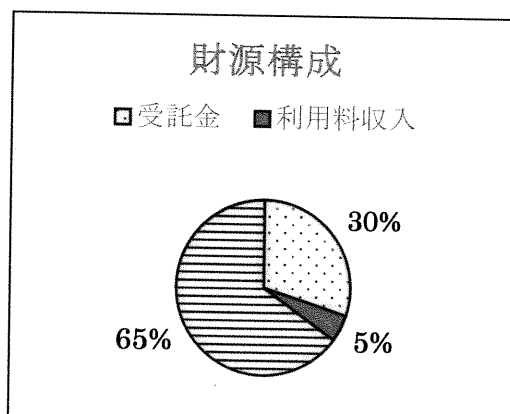
【福祉サービス利用援助事業（日常生活自立支援事業）】

在宅で生活されている判断能力に不安がある高齢者や知的・精神障がい者等の福祉サービスの利用の援助や、生活費管理の手伝い、通帳や書類の管理に不安があればお預かりした。

専門員、生活支援員、地域センター職員による定期的な関わりのもと、行政等関係機関、地域の支援者と効果的に連携を図りながら、ご利用者の生活の安定や自立の向上に努めた。



校区別 利用者数	地域別 人数	内、生 活保護
生 野	3 人	2 人
奥銀谷	2 人	1 人
糸 井	1 人	0 人
大 蔵	3 人	2 人
和田山	5 人	2 人
東 河	0 人	0 人
竹 田	1 人	0 人
梁 瀬	2 人	0 人
栗 鹿	1 人	1 人
与布土	0 人	0 人
中 川	3 人	0 人
山 口	3 人	1 人
合 計	24 人	9 人



(新規契約事例)

- ・ 息子が認知症のある母親の年金を搾取し、高熱水道費や税金、福祉サービス費の支払いが滞り、滞納として大きくのしかかった世帯。母親の通帳と印鑑をお預かりすることで、年金の中でサービスを受けながら在宅生活を続け、かつ滞納も少しずつ返済しており、母親の年金と共に生活も安定してきている。

(傾向と課題)

- ・ ご利用者ご自身が収支状況を十分に把握されておらず、年金計画以外の払い出しの要望が度々あるというような傾向が見られる。収支の状況や、不測の事態に備えた蓄えをどうぞ本人に理解していただけるのかは本事業のポイントであり、ご利用者全員に共通する課題である。

【相談事業】

①結婚相談

全国的な問題でもある少子化対策の一環として結婚問題の解決に向け、市内の相談員並びに但馬管内の相談員等と連携し相談業務を実施した。

第2水曜日を相談連絡会とし、市内12名（地域センターごとに3名ずつ）の相談員が集まり、情報交換等行う。

◆ 課 題

インターネットの普及や独身女性人口の減、結婚に対する個々の考え方が変化してきていることなどから、登録者も減少傾向にある。又、市内のみならず、但馬内など広域的な活動が今後もっと必要となってくる。

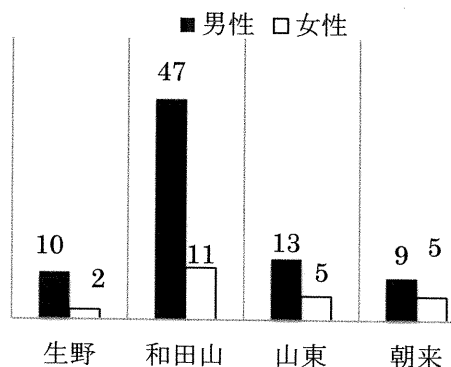
◆ 相談所状況

	紹 介	見 合 い	相 談	会 議
活 動 状 況(件)	142	39	810	93

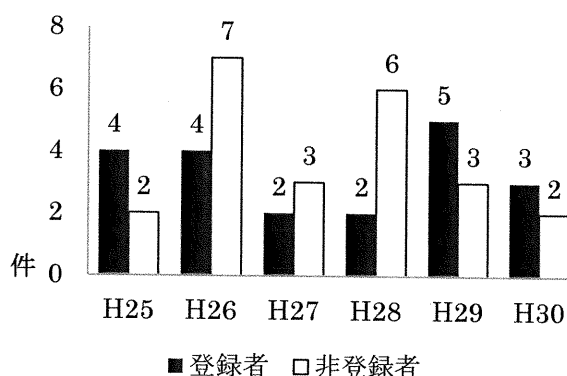
◆ 30年度成婚件数 5 件

◆ 登録者数 102名（男性79名・女性23名）

30年度登録者



結婚成立件数



会議等	回数	出席者
総会 例会	年 1 回 (6/19) 年 4 回 (7/18・9/14・12/5・3/6)	主任・副主任相談員
研修交流会	年 2 回 (8/29・10/29)	全相談員
婚活イベント (結婚相談登録者)	年 1 回 (11/11) 会場：chou chou pot (シュシュポット) カップル成立 5 組	主任・副主任相談員

《30 年度受付状況》

生野地域センター	和田山地域センター	山東地域センター	朝来地域センター
0 件	1 件	1 件	1 件

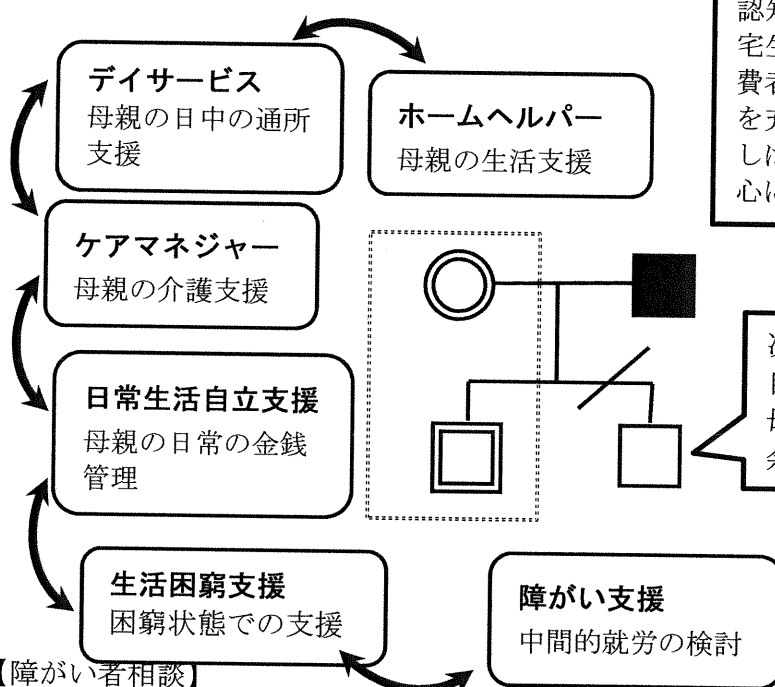
[illegible]

福祉なんでも相談窓口チラシ

【総合相談事業】（障がい者相談・高齢者相談・生活困窮者相談）

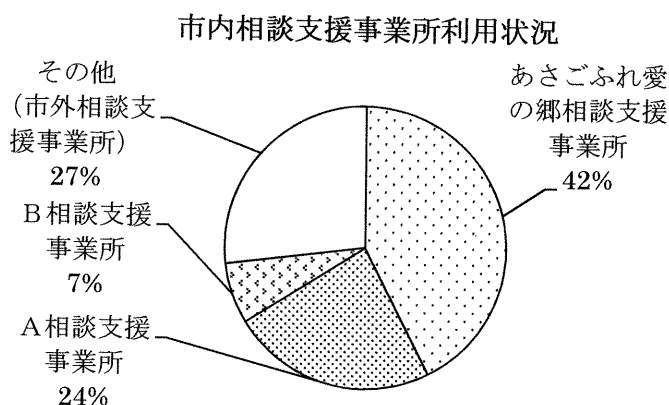
相談者が抱えておられる様々な生活課題に対し、それぞれの視点から総合的な支援が展開できるよう、障がい者相談・高齢者相談・生活困窮者相談の担当が一つの部局で横断的に情報を共有するとともに相互に協働する中、相談者の個別的支援・地域的支援など総合的な支援を意識し支援した。

<複合的な課題が認められる世帯>



【障がい者相談】

<現状について>



非該当	66
区分 1	2
区分 2	20
区分 3	11
区分 4	27
区分 5	12
区分 6	15
合 計	153

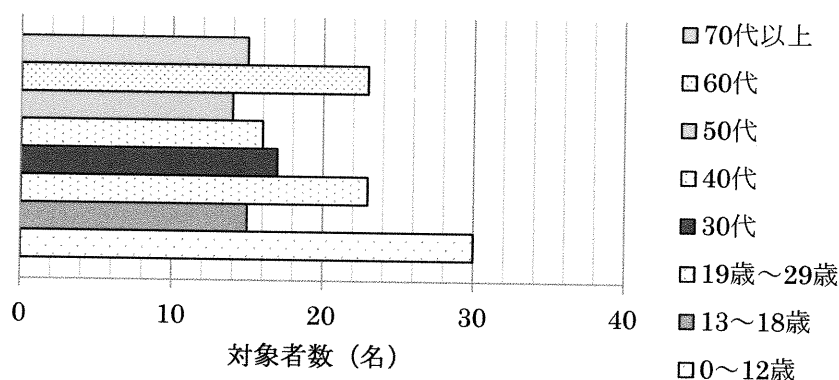
市内に障害福祉サービスのご利用者は約 360 名あり、前頁のグラフにある通り障害福祉サービスご利用者の約 42%（153 名）が法人の事業所で相談対応を行っている。

法人事業所ご利用者 153 名の方の障害程度区分（区分 1 が軽度で数字が大きくなるにつれて重度の判定）の内訳については、グラフ右の数字となっており区分 4 以上の方（54 名）は、

施設入所の対象にもなられる為、約半数の方はすでに入所されている方である。それ以外の方は在宅で生活されています。相談内容の傾向として、ご家庭の状況の変化や家族の高齢化等に伴う介護力の低下により施設入所を希望される方が増えてきている。

<今後の課題>

自事業所年齢別対象者



現状、0～12歳併せて13～18歳の児童の方の相談ケースが増加しており、市内に児童を対象とした事業所が自事業所以外にない為、今後も増えていく事が予想される。

併せて、60代～70代の方の相談も増加しており、障がい者相談にも高齢化の波が押し寄せてきており、介護保険サービスと障害福祉サービスを併用されるケースも増えてきている。

<来年度に向けて>

相談内容の多様化に伴う職員のスキルアップを行うと共に社協内、他関係機関（行政等）との連携強化や社会資源の開発等も視野に入れた幅広い対応が出来るようにしていく。

【高齢者相談関係（高齢者相談センター）】

和田山町糸井地区・大蔵地区・東河地区の高齢者相談窓口として市より受託し、担当地域の高齢者の地域生活をサポートした。

相談内容	H30 年度	H29 年度	H28 年度	H27 年度
介護保険に関する相談	346	419	305	347
見守り訪問等での生活状況の把握、その他	602	838	738	443
各種福祉サービスに関する相談	135	165	77	38
福祉用具・住宅改修に関する相談	99	122	96	184
ケアマネジャー選定支援に関する相談	122	100	97	126
認知症に関する介護・生活・医療相談	100	73	29	24
認知症以外の介護・生活・医療相談	2	10	2	15
医療機関との入退院調整	15	10	18	13
地域ケア会議、カンファレンス等	3	4	15	23

虐待、成年後見に関する相談	5	0	4	2
地域ミニデイ等への支援	180	61	64	40
計	1,609	1,802※	1,445	1,255

<年度別実績>

〔校区别受付件数〕

糸井	103 件
大蔵	100 件
東河	48 件

〔相談経路内〕

家族→地域包括→相談センター	32 件
家族→相談センター	24 件
医療機関→相談センター	21 件
本人→地域包括→相談センター	7 件
ケアマネジャー→相談センター	5 件
本人→相談センター	4 件
<活動状況について>	5 件
民生委員→地域包括→相談センター	3 件
医療機関→地域包括→相談センター	2 件
民生委員→相談センター	1 件

〔受付後の対応について〕

ケアマネ ジャー事 業所へ	高齢者相談センタ ーで対応	142 件
	いきいき介護セン ター	33 件
	ひだまりの郷	12 件
	さかもと医院	10 件
	さくらの苑	5 件
	JAたじま和田山介 護センター	5 件
	介護のこじま	4 件
	緑風の郷和田山	4 件
	立雲の郷	1 件
小規模多 機能事業 所へ	いくの喜楽苑	1 件
	おくらべ	3 件
	たまき喜楽苑	2 件

〔相談センターでの対応状況（重複あり）〕

継続	見守り訪問	137 件	終了	死亡	4 件
	入院中	15 件		介護保険申請取下げ	1 件
	介護保険申請中 （認定結果待ち）	5 件		施設入所	1 件
	認知症初期集中会議対応※	2 件			
	介護保険申請検討中	1 件			
	その他	1 件			

※認知症初期集中会議…市地域包括支援センターを中心にチームを組み、認知症対象者への支援方針等を検討する会議

【生活困窮者相談】

離婚・失業・転職等、一時的に生活に困窮された世帯に対し、それぞれの実情に応じた生活支援を行い、危機的な状況からの回避に向け支援を行った。

<月別対応状況一覧>

(対象者) 延べ人数 128 名

(単位:名)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
対応者数	13	11	10	10	11	8	9	10	18	9	10	9	128
継続	10	10	9	8	7	6	7	8	10	8	8	9	100
新規	3	1	1	2	4	2	2	2	8	1	2	0	28
終了	3	1	3	2	3	2	0	1	3	2	2	0	22

<主な支援内容>

	主な支援	件数	内 容	備 考
一 時 支 援	食糧支援	16 件	インスタント食品、米、食材等	生活保護受給や福祉施設入所までの間、つなぎ支援含む
	生活必需品の貸与・提供など	3 件	ガスコンロ、カセットボンベ、ランタン(乾電池含む)	
	その他 生活必需品の提供	3 件	日用品、介護用品の提供	
	歳末助け合い運動での支援※	14 件	歳末助け合い運動として食糧や生活必需品(灯油)等を提供	
	住宅環境整備	3 件	ゴミ屋敷化する世帯への清掃活動	
	放置車両の撤去作業	1 件	長期間、放置されていた車両の撤去作業	
	介護用ベットの提供	1 件	市民の方が使用され不要になった介護ベッドの引き取り、必要な対象者へ提供	
継 続 支 援	生活困窮者への定期訪問	49 件	生活困窮状態に陥ることを未然に防ぐため、定期訪問、見守り訪問等	親の介護、多重債務、税滞納等複合型のケースが多く引き続き関わりが必要である。社協の金銭管理(日常生活自立支援事業)に繋げたケースも
	利用料延滞者への訪問活動	6 件	社協利用料金等の滞納者への訪問	継続的な訪問により今年度精算完了のケースも

※歳末助け合い運動での支援(財源:善意銀行への預託)

年末には生活に不安のある14世帯を対象に心豊かな新年を迎えていただくため食糧等の提供を行った。

<課題>

一時的な支援だけでは生活の再建・再生は望めない。総合相談窓口

として横のつながりはもちろんのこと市の生活困窮支援担当者や地域との連携を図りながら「(この人を)何とかしたい、良くしたい!」という気持ちが源泉であり、持続・継続的な関わりを進めていくことが必要だと思われる。



<その他 市民への食糧等の提供呼びかけ（啓発活動について）>

●協力いただきたい品物

お米、インスタント食品、缶詰、海苔、乾麺、ふりかけ、調味料、その他、日用品等

【資金貸付事業】

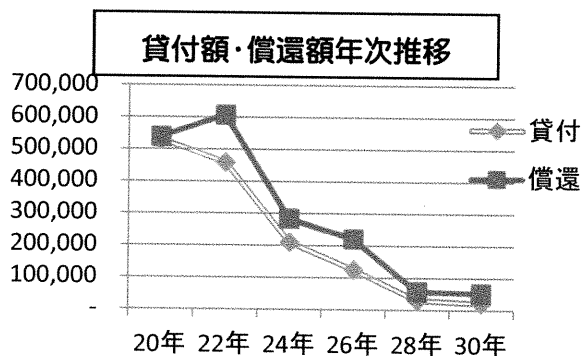
《法外援護資金》

様々な理由により一時的に生活困窮世帯へ貸付を行う事により、生活の改善・自立を目的とする本会独自の貸付制度。

貸付限度額・・・100,000 円 貸付利子・・・無利子 償還期間・・・1 年以内

貸付状況(平成 31 年 3 月 31 日現在)

年度当初残高	年度内貸付額	年度内償還額	年度末残高	償還中件数
606,900 円	21,000 円	53,000 円	574,900 円	13 世帯



◆状況と課題

- * 市社会福祉課と連携し、生活保護費が支給されるまでの生活費として貸付した。
- * 平成 30 年夏は猛暑日が続き、エアコン取り付けの貸付に動いたが、宅内工事費の増加により貸付けを断念された対象者があった。
- * 滞納者への償還促進に係る借り入れ後の生活状況等の聞き取りを兼ね訪問活動。

《生活福祉資金》

他から融資を受ける事が困難な低所得世帯・障がい者世帯・介護を要する 65 歳以上の高齢者世帯、失業により生活に困窮されている世帯を対象とする貸付制度。

実施主体・・・兵庫県社会福祉協議会 貸付状況 平成 30 年度 0 件(31 年 3 月 31 日現在)

資金種類	貸付件数	内容
福祉資金	3 件	生業経費・技能習得経費・疾病等療養経費・障害者自動車購入経費・負傷又は疾病の療養に必要な経費等。
教育支援資金	7 件	高校・大学（短大・専修学校含む）等へ入学・就学に際し必要な経費。
総合支援資金	26 件	失業により日常生活に困難を抱えておられる方の生活再建に必要な経費。
不動産担保型生活資金	0 件	居住用不動産を有する高齢者世帯に、当該不動産を担保とした生活費。

《その他》

- ◆ 貸付は支援方策の一つとしてとらえ、相談者の生きづらさをお聞きする事や、相談ごと

の背景にある生活状況全般をふまえ、貸付だけにとらわれず相談者にとって最も必要な支援方法を検討した。

- ◆ 市社会福祉課、民生委員との連携や、日常生活自立支援事業・生活困窮者相談担当者との連携を図った。《貸付相談実数(20件)のうち、食糧支援を5件行い、日常生活自立支援事業の契約に向け1件活動中》

【あさまる支援事業】

本会介護保険事業所と契約されている方を対象に、介護保険制度上のサービスだけでなく、制度外のサービスを本事業が提供することにより、利用者の個別ニーズに柔軟に対応。住み慣れた地域での生活を応援した。

「あさまる支援事業」サービス内容

	サービス内容	利用料金
訪 問	① 通院時の付き添いや院内での介助、処方箋の提出を行う。 ② 見守りや話し相手、散歩、安否確認などの生活支援を行う	30分 780円
宿 泊	冠婚葬祭や虐待など、緊急の場合の宿泊サービスを行う。 ・ 送迎と入浴は原則不可 ・ 1日1名の利用 ・ 医療処置のない方を対象とする	1回 10,000円 朝食 200円 夕食 680円
早朝・夜間対応サービス	早朝・夜間の利用時間を拡大し、利用者様及びご家族様の便宜を図る。 ・ 早朝 7:00～ 9:30 ・ 夜間 16:00～20:00	かしのき園 30分 780円 ふらっと 30分 780円

■平成30年度 あさまる支援事業利用実績（月別利用状況）（人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
訪 問	4	4	5	5	7	2	5	3	5	3	6	4
通 所	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
早朝・夜間	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

【実施した支援内容】

※今年度は通院介助、買い物、ゴミ出し、季節に応じた衣類の整理、シーツ交換等の支援を行った。

- ・ あさまる支援で対応することにより、ご利用者のニーズにあった柔軟なサービスを提供したことでご利用者から「安心して受診ができた」「ヘルパーさんと一緒に行って自分の欲しい物を実際に選んで購入することができた」等の意見を頂いた。

【今後のあさまる支援事業の課題】

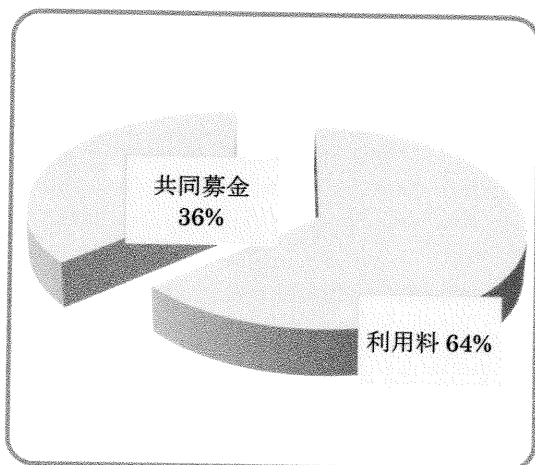
緊急時の対応や、より充実した個別ニーズに応えるためには支援員確保の検討が必要である。

【配食サービス事業】

70歳以上の在宅一人暮らし世帯及び高齢者のみの世帯等で、食事の確保が困難な方、安否確認が必要な方を対象に、希望曜日のお昼と、夕方（曜日限定：生野・朝来地域 火・木曜、和田山・山東地域 水・金曜）に弁当をお届けした。今年度からは、事業受託者に於いて調理した保温容器弁当とパック弁当の2形態によりサービスを提供、土・日・祝祭日・年末年始については、パック弁当のみでの提供とした。

- 利用日 365日 ● 利用料500円（保温弁当）450円（パック弁当）
（減免対象者はいずれも300円）

《事業財源内訳》



この事業の財源の予算内訳は、利用料収入が約435万円、共同募金による配分金が約250万円となっている。民間業者では対応が難しい山間地域への配達や制度では対応が困難な利用者宅への配達を共同募金の貴重な財源を活用し行った。

《ニーズに基づく配食サービスについて》

より良い配食サービスを目指す為、ご利用開始や前回のアセスメントから1年以上経過しているご利用者のお宅に訪問し、現在の生活の様子や身体状況、親族・近隣の方との関わり等をお聞きした。希望された方にはきざみ食やおかずのみのお弁当の提供、それ以外にも薬の関係で食べられない食品がある方やカレーが苦手な方等、委託業者と相談の上対応した。

《困りごとお助け隊事業について》

サービスを希望されている方に、配食時何か困りごとは無いかお聞きし、電化製品の使用方法の説明や電球の取り換え、服薬への声掛け等を行った。

《安否確認を兼ねた配食サービス》

配食時、ご利用者様が部屋で転倒して動けなくなり助けを呼んでおられた事があった。急いでご利用者を起こしケガ等無いかを確認、幸いケガ等は無くその後担当のケアマネジャーに報告した。見守りも兼ねた配食サービスの必要性を感じた。

【配食利用総食数】

平成 30 年度	8,833 食
平成 29 年度	9,691 食

【校区・年代別利用者数】

(単位：名)

年齢 校区	59 歳 以下	60 ～ 64	65 ～ 69	70 ～ 74	75 ～ 79	80 ～ 84	85 ～ 89	90 ～ 94	95 ～	合計
糸井						1	3	2		6
大蔵						2	4	1		7
和田山					2	1	2	4	2	11
東河					1				1	2
竹田							2	5		7
梁瀬					1	1	3	3		8
栗鹿					1					1
与布土							1			1
中川						1	4	2		7
山口	1	1					3	2		7
生野	1				1	2		2		6
奥銀谷							1			1
合計	2	1			6	8	23	21	3	64

【校区・利用頻度別利用者数】

(単位：名)

利用頻度 校区	毎日	週 6日	週 5日	週 4日	週 3日	週 2日	週 1日
糸井		1	1			1	3
大蔵			2	1	3	1	
和田山	6	1	3		1		
東河	1			1			
竹田	3	1			2	1	
梁瀬	2		1	2	2	2	
栗鹿							
与布土					1		
中川	1	1	2	1	1		1
山口	2		1		1	3	
生野		3	1			2	
奥銀谷					1		
合計	15	7	11	5	12	10	4

【福祉バザーの開催】

今年度、高齢者施設にAED（自動体外式除細動器）の購入費に充当することを目的に和田山地域5地域と生野地域でバザーを開催した。

日 程	場 所	内 容	売上額
10/27 (土)	大蔵小体育館	・市民の皆さん物品提供によるバザーなど ・市内企業(山芳製菓株式会社様とハイロン株式会社様)からの商品提供による販売	656,340円
10/28 (日)	竹田小体育館		
10/31 (水)	東河地区市民会館		
11/10 (土)	糸井小体育館		
11/11 (日)	枚田小体育館		
3/11 (日)	生野老人福祉センター	・市民の皆さんとヒラキ株式会社様からの物品提供によるバザー	201,855円
計			858,195円

今年度は、和田山地区にて開催した福祉バザー（愛の即売会）では、昨年度の1会場2日間の開催から、5校区5会場5日間で開催した。地元の方が「近くの会場に行ける」との声もあった。

AED（自動体外式除細動器）については、小規模多機能施設のおくらべとえんやに配置した。施設のご利用者だけでなく、近所の住民の方にも緊急時に使用していただくように地域で活用いただきたい。

【子育て支援事業】

少子化・核家族化が進む中、地域での大切な子ども達の子育て支援を目的として乳幼児の一時預かりを実施した。（生野のみの事業）

〔事業概要〕 平成20年 5月より実施。

利用方法	①利用登録申請書の提出 （乳幼児の氏名・年齢・緊急連絡先・おもちゃ遊びや遊びの嗜好等を記入） ②子育て支援申込書を提出(電話での受付も可) ③ボランティアスタッフの調整 ④利用日当日(保護者からの連絡事項の確認→預かり) ⑤利用料はなし
------	---

過去5年間利用実績 少子化により、利用が減ってきている。

年度	H26	H27	H28	H29	H30
延べ活動回数	8	9	4	3	2
利用者数	10	12	13	21	3

※H30 年度利用理由 ・入社面接の為 ・生野小学校 PTA 心肺蘇生法実技講習参加の為 etc
 <課 題>

・随時の預かりなので、預かるボランティアスタッフの予定が前もって組めない。早めに利用申請をしていただけるようにしていきたい。

朝来市ボランティア市民活動センターに登録されている和田山と山東のボランティアグループの会員さんが、月に1回、朝来市保健センターで行われている離乳食講習会で活動をされている。



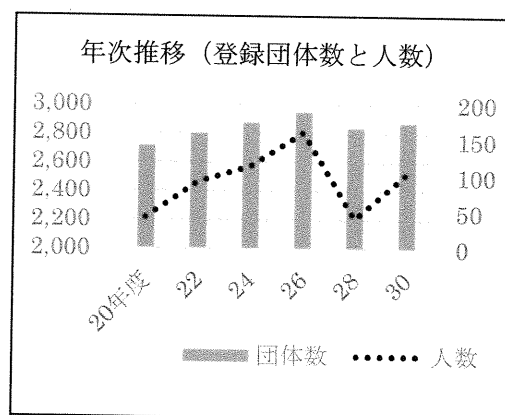
【朝来市ボランティア市民活動センターの運営】

地域福祉活動を推進の核となるボランティア活動を支援するため、本部総合支援課で「朝来市ボランティア市民活動センター」を所轄し、各地域センターではボランティア活動者の相談窓口として活動支援を行った。

(1) 登録ボランティアグループの状況 [平成31年3月末現在]

区 分		団体数	前年度増減	増減の理由
福祉関係	地域でのサロンやミニデイ	78	➤ +4	ミニデイ開所数の増加
	子育て支援・子どもの健全育成	8	➤ -3	他の活動へ移行等
	宅老所・給食・家事援助・入浴など	5	➡ ±0	
	移送サービス・外出支援など	1	➡ ±0	
	手話・要約筆記・点訳・朗読など	6	➤ +1	視覚障害者支援の登録
	施設支援・施設友愛訪問ほか	15	➤ -4	高齢化による脱退・休止等
まちづくりに関する活動		18	➤ +3	見守り・防犯活動の登録
社会教育に関する活動		3	➤ -2	高齢化による脱退等
環境保全に関する活動		3	➤ -4	高齢化による脱会等
文化・芸術・スポーツに関する活動		29	➤ +5	健康教室・舞踊の登録
その他		9	➤ +2	とじこもり支援等の登録
合 計		175	+4	

	人数	前年度増減
個人ボランティア	48	-7
団体ボランティア	2,480	+225
合 計	2,528	+218



（２）ボランティアに関する相談・コーディネート

ボランティアに関する相談（ボランティア派遣調整等）について、各地域センターのボランティアコーディネーターが対応した。

・ボランティア関連相談件数

相談依頼者内訳	件数
市民	85
ボランティア	433
施設・病院	23
行政機関	4
社協	5
福祉団体	58
学校・教育機関	9
その他	1
合 計	618

相談内容の内訳	件数
活動希望の相談	20
ボランティア派遣の依頼	227
人材に関する相談	0
機材に関する相談	27
資金に関する相談	254
組織・事業運営に関する相談	6
NPO 法人設立に関する相談	3
その他	109
合 計	646

・コーディネート（調整）件数

対 象		依頼件数	調整件数	活動実践者数
在宅	高齢者	2	2	2
	障がい者	2	2	2
	その他	2	2	1
施設（福祉事業者等）・病院		25	22	330
行政機関		4	4	42
福祉団体・市民活動団体		1	1	18
学校（福祉学習含む）		6	6	49
その他		0	0	0
合 計		42	39	444

※ 活動実践者数は延べ人数であり、人数×日数でカウント

(調整ケースの一例)

- ・ホームページを見た市民の方がハンドマッサージや話し相手のボランティアを希望され、福祉施設での活動の調整を行った。また、仲間づくりに向け、ご本人と同様の活動されている団体との橋渡しの支援を行った。
- ・都会から転居されてきた市民の方からの相談。福祉施設での活動を紹介し、お試しで活動されるもイメージと違いお断わりを受けた。そこで、その方が地域になじめるようにと近隣のぷちサロン活動をご紹介しますと継続して参加いただけるようになった。

(3) 県民ボランタリー活動助成事業

「県民ボランタリー活動助成事業」の事務の取り扱いを行った。

実施主体	ひょうごボランタリープラザ
対 象	県内で活動している登録ボランティアグループ
要 件 ・ 助 成 額	1. 構 成 員 : 5 名以上 2. 活動実績 : 年間 1 2 回以上 3 助 成 額 : 25,000 円
助成団体	30 年度 51 団体 (29 年度 53 団体)

(4) ボランティア育成助成金の見直し

限られた財源を地域福祉に最大限活動するべく本会ボランティア育成助成金を見直した。地域共生社会づくりを目指し、ボランティアによる住民相互の助け合い・支え合い活動に焦点を当てた枠組みに重点的支援していくこととした。

(5) ボランティア市民活動センター運営委員会

ボランティアグループの代表者、福祉施設関係者、学校・教育関係者、市民代表者、学識経験者、社協関係者等 12 名で構成し研究協議を行った。今年度は拡大していくミニデイやぷちサロンの集いの場の連絡会の開催についてディスカッションを行った。

開催日	内 容 ・ 議 題
平成 30 年 9 月 27 日	今後のミニデイ・ぷちサロンの運営支援について 取り組み団体の増加に向けての意見交換

(6) ボランティア体験教室「学ボラ」

市内の小中学生・高校生が人と人とのつながりの大切さを実感し、思いやり・支え合いの心・ボランティア精神を育むことを目的として開催した。

実施期間	平成 30 年 7 月 21 日～平成 31 年 3 月 31 日
場 所	山東老人福祉センター・朝来地域センター

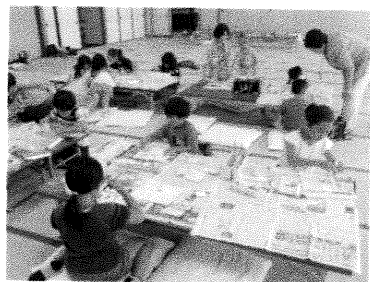
参加人数	6名（内、中学生2名・高校生4名）
活 動	小規模多機能施設でのボランティア…2名 学習支援ボランティア（単発）…2名 街頭募金ボランティア（単発）…2名

（課題）・チラシを作成し配布したが、参加者が伸びなかった。配布する工夫を要する。

（7）寺子屋あさご

市内の小学生を対象とし、ボランティアの支援を受けながら宿題や工作を行う目的で開催。全2回の内、1回は台風接近に伴って延期となった。

実 施 日	平成30年7月29日、8月18日
参加人数	参加児童…31名（両日） 学習支援ボランティア…9名（両日）
活 動	午前はボランティアの支援により個々の学習習熟度を考慮しながら宿題を行った。お昼にはカレーを食べ、午後は工作づくりに取り組んだ。



【山東いこいの家】

朝来市山東支所の委託事業。各区の世話人さんや民生委員の皆さんにご協力いただき、概ね60歳以上の方を対象に旧小学校単位（梁瀬・栗鹿・与布土）を基本単位に保育園児との交流や会食会、講話等を通じて生きがいづくり、健康づくり活動を実施した。



●平成30年度各地区別登録数・参加人数等状況

地 区	梁 瀬	栗 鹿	与布土	合 計
登 録 者 数	72名	100名	47名	219名
参加実人数	67名	77名	46名	190名
皆 勤 賞	22名	27名	24名	73名

●平成30年度開催内容

開催月	開催内容	参加人数
4月	始業式 レクリエーション 日本民謡ちさと会 ※3地区合同開催	152名
6月	講座 レッツ倶楽部朝来 町内こども園・保育園交流会 ※3地区合同開催	143名

8月	講座 デイサービスセンターなごみの郷 レクリエーション 大野澄子氏（ハーモニカ演奏） ※梁瀬・磯部地区と栗鹿・与布土地区合同に分けて 2回開催	125名
10月	会食会 出前講座 兵庫県立コウノトリの郷公園 環境学習指導員 田上圭児氏 レクリエーション あさごハーパーズ（ハーブ演奏） ※3地区合同開催	145名
12月	講座 鷗森丸美氏（楽しいコミュニケーション術） レクリエーション 米田民子氏（梁瀬・磯部地区） 今村明美氏（与布土地区） 〃（栗鹿地区） ※梁瀬・磯部地区、与布土地区、栗鹿地区に分けて 3回開催	138名
2月	終業式 皆勤賞発表 健康ひょうご21県民運動 健康マイプラン実践講座 健康運動指導士 高橋 博氏 ※3地区合同開催	129名

●今後の課題

登録区が減少してきており、平成30年度は前年に比べ1地区減少した。参加者の高齢化に伴い、参加取りまとめをする事が困難になってきた地区もある。

今後は民生委員にも協力を依頼したり、開催内容を今以上に充実したものにするなど引き続き登録地区・登録者数を増やしていく方法を検討する必要がある。

【地域とまり木事業】 とまり木サロンわだやま

誰もが気軽に集える憩いの場として平成18年10月に開所。和田山駅前ということもあり、近年は旅行のお客様も多く立ち寄られている。本年度は12周年を迎え、10月23日のイベントでは常連のお客様をはじめ、皆さまと共に12周年イベントを実施した。

また本年度は、9月より毎週水曜日午前中に、モーニングセットの提供(料金300円)を行い、好評を得ている。これからも来所いただくお客様にとってよりよい「とまり木サロンわだやま」を目指して頑張っていきたい。

■とまり木12周年イベント（平成30年10月23日）



午前中は朝来市シルバー人材センターおとめの会さんによる「ハンドマッサージ」、午後はハーモニカさーくるあおぞらさんによるハーモニカ演奏とくじ引き大会を行った。午前・午後ともにたくさんの方に来所いただいた。

■モーニングセットの販売（毎週水曜日 9：30～12：00）



トースト(ジャム・チーズマヨ・プレーン)、サラダ、ドリンクのセットを提供。

■毎月のイベント

個人ボランティアやボランティアグループにお世話になり、「折り紙教室」、「いきいき体操教室」、「歌声ひろば」、「ハンドマッサージ」を定期的で開催し、来所者に喜ばれている。また、毎週木曜日には寺谷直売所の朝市も行われ好評を得ている。

■年間実績

平成31年3月31日現在

年度	開所日数	来客者数	一日平均来客者数	売上合計
平成29年度	249日	8,223人	33.02人	1,559,388円
平成30年度	253日	8,569人	33.86人	1,781,650円

【介護用品支給事業】

介護認定要介護4及び5、またはそれに相当すると認められた高齢者や特定疾病の方を在宅で介護されている市民非課税世帯の家族に対して介護用品の支給を行った。

◆対象期間 2018年7月1日～2019年6月30日

◆支給額 75,000円(上限額)

地域センター	生野	和田山	山東	朝来	合計
支給決定者数	5	15	10	9	39
支給決定額(A)	356,250	1,012,500	725,000	662,500	2,756,250
利用者数(延べ)	12	48	53	34	147
実利用額(B)	130,400	451,310	389,210	217,410	1,188,330
3月末執行率 B/A	36.6%	44.6%	53.7%	32.8%	

◆地域センター職員の心に残るエピソード

介護用品支給事業の対象者は介護サービスを色々取り入れながら在宅介護をされている方々。地域センターに来られると、日々の介護について悩みや、苦勞を話される方も多い。

例えば…

- ・介護をされているお母様と二人暮らしの男性。来られるたびに少々愚痴っぽい話をされていた。正月明けにお母様が亡くなられ、挨拶に来られた時に、ぽっかり穴が空いたよ

うに淋しいと言われた。

- ・ご主人が病院から退院されて、奥さんが久々に購入に来られた。「本人が家にいるというのが嬉しい」と話された。
 - ・車が無いお宅へ配達に行くと、「大きな荷物は運べないので助かる」と喜んでいただいた。
- また、介護用品についてアドバイスを求められることもあった。

◆検討課題

基本的な商品を揃えて対応しているが、ご利用者の中には、特定の商品を希望される方もあり、個々の細かな希望には至っていないが、商品の更新時は各地域センターの担当間で調整を要する。

【あさご交流 Café】

独身男女が気軽に集え交流を図る事を目的に開催した。

開催日	会場	参加者数		カップル成立数
		男性	女性	
1 2 / 2	竹田城城下町ホテル EN	8 名	8 名	5 組
3 / 1 7	和田山ホテル	8 名	6 名	3 組

《スケジュール》

1 0 : 0 0	男性集合。心構え等について講師から レクチャーして頂く。
1 0 : 3 0	女性集合。
1 1 : 0 0	開会、自己紹介等会話を楽しんで頂く。
1 2 : 3 0	交流を深めながら昼食。
1 3 : 3 0	男女チームになり小物づくり。
1 5 : 0 0	マッチング集計、結果をご本人にお伝 えし閉会。



(両日とも同様のスケジュールで実施)

【地域ミニデイ指導者（ふれあい講師）派遣事業】

健康体操、歌唱披露など、趣味や特技を生かし活動を行っている個人・団体や、保健・医療・福祉などの専門知識を持たれた方に『ふれあい講師』としてご登録いただき、地域でおこなわれるミニデイ活動やぷちサロンなどのさまざまな集いの場に、その充実や活性化を目的として派遣した。また、「ふれあい講師おすすめ百科」を作成し配布すると共に、ホームページの講師紹介では動画や写真を使い、よりわかりやすい講師の方々のプロフィール、具体的な活動等の紹介に努めた。

今後、地域でのより身近な集いの場での利用増が望まれる。

《 活動形態別利用件数 》

地域ミニデイ	62 件 (40%)
ぷちサロン	8 件 (5%)
老人クラブ	32 件 (20%)
区、民生委員会他	54 件 (35%)

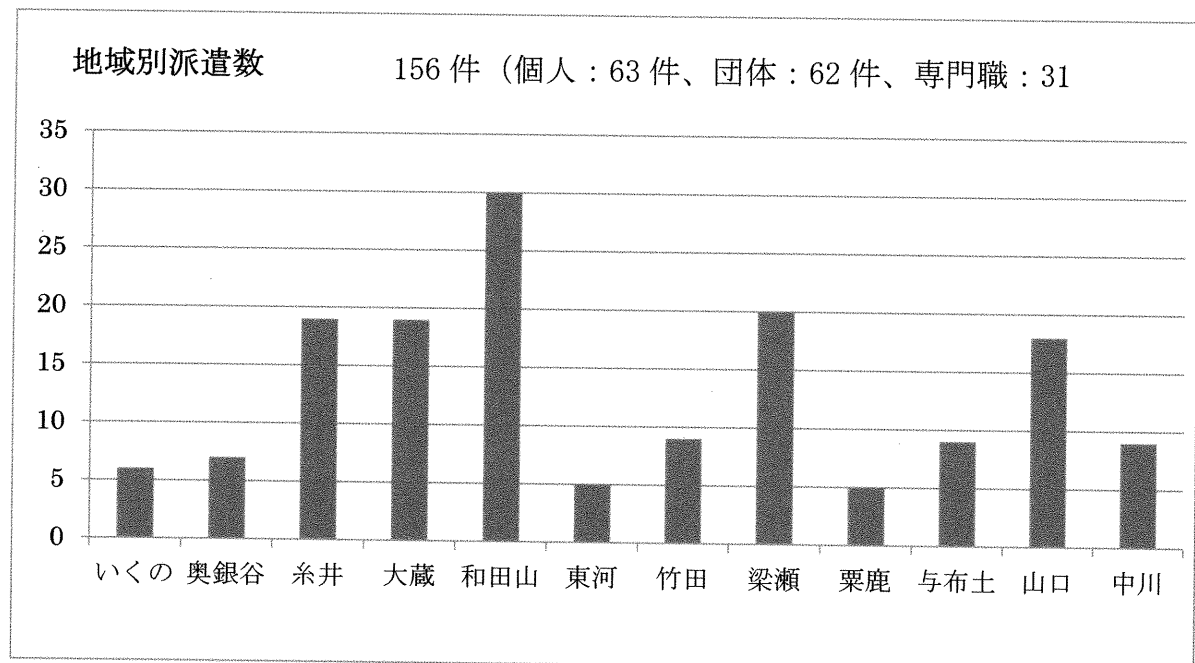


《 ふれあい講師登録数 》

個 人	25 名
団 体	21 団体
専門職	8 団体

ふれあい講師「立雲の郷とらふす道場」の様子

(H31. 3. 31 現在)



【地域ミニデイサービス事業】

今年度からミニデイに対する助成制度を見直し、地域ミニデイに加え、気軽な集いである「ぷちサロン」に視点を当て、推進した。ぷちサロンは当初の予定回数をはるかに超え、各市内へ浸透していった。又、各地で広がっている、「あさごいきいき百歳体操」との合同開催により、地域住民自らの集いになっていった。趣味の集まり、身近な居場所での気軽な茶話会から、地域ミニデイのような継続的な集いを増やすことによって、地域の見守り、つながりの意識が高まっていった。さらに、「ふれあい講師」の派遣により介護予防や生きがい作りの支援を行った。

●ミニデイ・ぷちサロン交流会

今回は、オープニングに「ふれあい講師」でもある山下昇氏に体操を披露していただいた後、グループで悩みのテーマ別に話し合う。最初にテーマに沿った開催地区の動画「やっとなでえ」

を見ていただき、感じたこと、出来そうなことを意見交換していただく。他地区の状況や悩み事を共有され、グループ代表として職員が発表を行った。最後に参加者全員で「やっとなるでえ」のポーズで記念撮影を行い大いに盛り上がった。(参考：昨年参加人数 52 名)

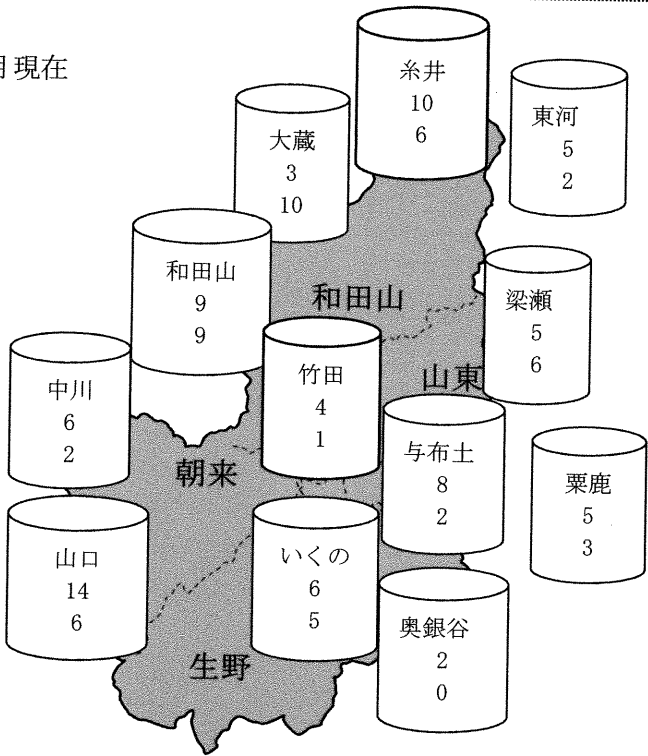
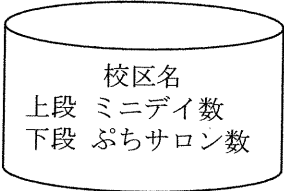
開催日	場所	ミニデイ グループ・人	ぷちサロン グループ・人	社協 委員	
3月1日	ささゆり ホール	17グループ 25名	6グループ 9名	8名	
3月8日	緑風ホール	28グループ 41名	22グループ 28名	12名	

3月8日
緑風ホールの様子

●普及状況（社協把握分）平成 31 年 3 月現在

朝来市内ミニデイグループ数 77
 ぷちサロングループ数 52

【図の見方】



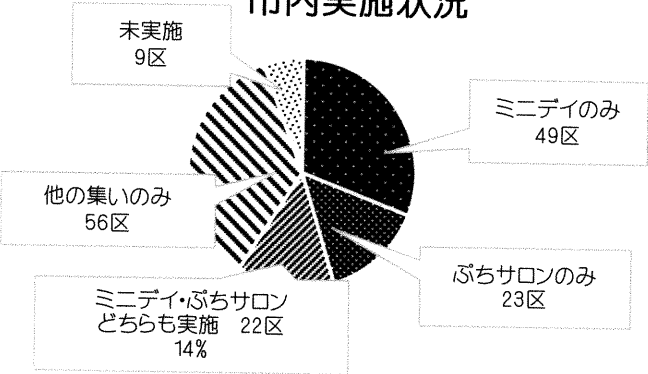
【旧町別ミニデイ助成金額】

	平成 29 年度	平成 30 年度
生野	240,00 円	280,000 円
和田山	1,260,000 円	1,230,000 円
山東	640,000 円	760,000 円
朝来	540,000 円	606,000 円

【ぷちサロン助成金額】

グループ数	実施回数	金 額
52	367 回	696,500 円

市内実施状況



※上記の表は、1 地区に多数のグループがある
 ※ぷちサロンは 5 人以上（内 65 歳以上半数以上）の集いがないと、定期・不定期を問わず
 年間 1～10 回まで利用できる。

●課題と今後の取組み

後継者、担い手がない。ミニデイに行けない。男性の参加が少ない。これらの課題に、合わせた、気軽な集いのぷちサロンを推進していく。例えば男性の参加を促す「畑サロン」（仮称）のような新しいタイプの集いを計画し、今後も気軽に継続、実施いただけるように、支援をする。又新しい集いをケーブルテレビ地域おたより便「やっとりでえ」で紹介する。

「ぷちサロン」⇒「ミニデイ」へと集いの場を増やし、地域の仲間づくり、出会いの場づくりを通してなじみの関係を作り、地区内で気になる情報をキャッチする。さらに社協委員を中心に、民生委員、区長と情報を共有して関係機関につなげる取り組みを目指す。

【地域支え合い体制づくり事業】

《生活支援コーディネーターの活動》

(1)地域活動の把握

各地域に動きがあれば情報を入手し、地域に出向き取り組みの把握に努めた。

例：与布土地域で行われている「これからの暮らしを考える座談会」に出席し、地域住民の方々、市職員等のご意見をお聞きした。大蔵地域では、「いきいき百歳体操」実施の拡大展開を考えておられるということで自治協の会議に参加した。

(2)ミニデイ・ぷちサロンの活動把握 未実施区へのアプローチ

ミニデイ・ぷちサロンの活動実施日に訪問し、活動の把握・CATV 撮影・相談等に応じた。相談は、主に助成事業の内容や活用の仕方であった。未実施区には、現状の把握やチラシの配布等でアプローチを行った。

- ・ぷちサロン参加者総数 4,946 人 内 65 歳以上 4,598 人
- ・開催回数 381 回 1 会場平均 12 人の参加

(3)支え合い体制づくりの仕組みを検討

ミニデイ・ぷちサロンの普及を目指し広報等で啓発した。実施グループには連絡会等で地域福祉推進計画中間見直しに掲げる段階的な機能の進化を提案しご意見を伺った。

(4)市との協働

毎月 1 回、市の第 1 層生活支援コーディネーターと合同で会議を行い、それぞれ役割をもって連携した動きに努めた。市の高年福祉課だけではなく総合政策課とも連携を図った。

《社協委員・地区社協活動》

第 2 回社協委員会会議の開催

2/19 北エリア（和田山・山東）参加人数：24名 開催場所：さんとう緑風ホール

2/26 南エリア（生野・朝来）参加人数：10名 開催場所：朝来生涯学習センター

情報の大切さを実感した、発信して共有することが大事とご意見があった。また、民生委員との協働を図りたい、気になるお宅のカーテンの開閉、ポストに新聞紙が溜まっていないか等の遠くからの見守りはできるかなとご意見をいただいた。旧小学校単位で地域の特性に応じた動きをされている地域には、出向いて状況把握に努め、『社協委員だより』でご紹介した。

《地域おたより便『やっとなでえ〜』》

CATVで63回目を放送した。

市内44地区（1地区2回の放送あり、番外編スタッフ編1回）
地域活動の啓発として継続した。



【福祉センター管理事業】

◇朝来老人福祉保健センターを平成9年度より社会福祉協議会が受託し、その管理を実施した。

◇センター機能

1. 相談窓口

月1回 心配ごと相談・人権相談

偶数月1回 行政相談

随時 介護、福祉機器に関する相談・その他福祉に関すること全般

2. 高齢者の生きがい創造への活動の場

市老人クラブ連合会朝来支部女性部の活動

高齢者(女性)が健康維持や趣味活動を地域に広めようと、健康教室(ヨガ体操)

やフラワーアレンジメント講習会を開催。

3. 保健活動に関する各教室や検診の場

①職場検診 ②就学前・児童検診(学校教育課) ③献血

4. 一般福祉活動での利用

①行政関係他

民協定例会議、シルバー人材センター懇談会・研修会・地域懇談会

②社会福祉協議会関係

ケアマネジメント支援会議・施設推進会議・あさごふれ愛の郷の活動

③各種福祉団体

各種会議、交流会、打合せ、総会等

④その他

交通安全教室の実施 平成30年12月17日

兵庫県警察本部交通部、高齢者交通安全教育隊(スタウス)が、
高齢者向けの交通安全教室を開催。

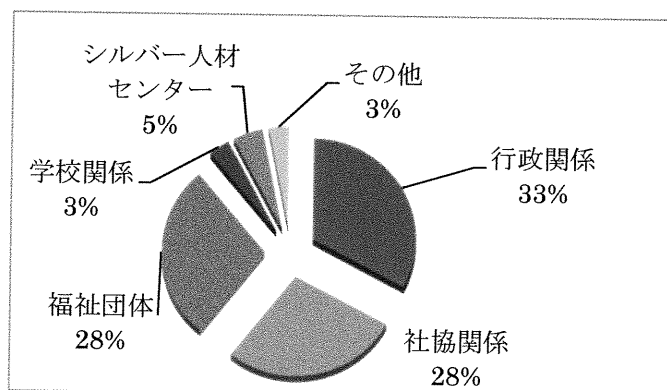
消防訓練の実施

平成31年2月28日

南但消防本部の指導のもと、地域センター職員で、火災発生を想定した避難訓練を行った。

◇年間利用者数 2,174 名

福祉センター利用団体内訳



【ボランティアグループ育成助成事業】

ボランティア市民活動センターへの登録ボランティアグループを対象に、ボランティア活動の推進と活動費負担の軽減を目的に活動助成を行った。

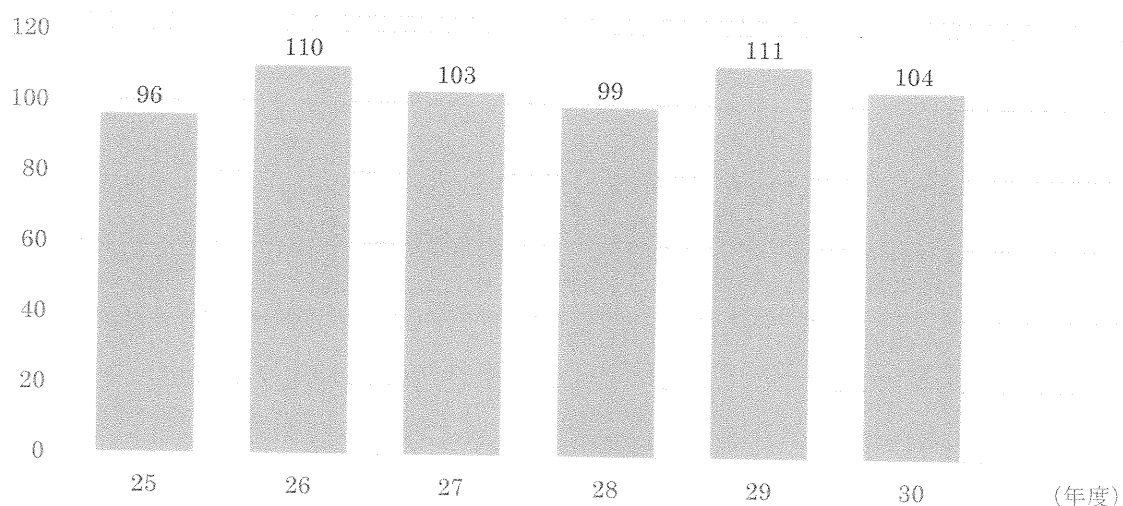
なお、助成開始から5年経過した一般ボランティアグループにおいては、育成期間を終了したとみなし、2019年度より助成の見直しをおこなうことを伝えるとともに、今後の活動展開について提案をした。

	地域ミニデイグループ			一般ボランティアグループ		
交付要件及び 助成額 (10,000円単位)	24回以上	上限	60,000円	12回以上	上限	30,000円
	13回から23回	上限	40,000円	8回から11回	上限	20,000円
	4回から12回	上限	30,000円	4回から7回	上限	10,000円

助成グループ活動別内訳

活動内容	団体数	活動内容	団体数
地域ミニデイ	66	環境保全、美化活動	4
施設ボランティア	8	体操、舞踊披露	3
楽器演奏	7	子育て支援	1
地域交流奉仕（友愛訪問等）	5	紙芝居、ペープサート等	1
当事者（高齢者・障がい者）支援	4	情報発信	1
読み聞かせ	4		
合 計		104 団体（H29 年度 111 団体）	

助成グループ数推移



今後の取組み

地域応援助成のうち、「チャレンジ応援助成」「ご近所助けあい助成」および「支え合い・助けあい活動助成」を利用された区には次年度よりボランティアグループとして育成助成金を活用していただける様にご案内した。

【ほっとコミュニケーション事業】

- 対象者 75歳以上の独り暮らしの高齢者
- 内 容 誕生月にお祝いの花を持って安否確認を兼ねた訪問を行った。必要と思われる対象者には関係機関につないだり、再度の訪問を行った。

【校区別対象者数】 ※合計 694 名(前年比 8 名減)

	70 歳代	80 歳代	90 歳以上	校区別計
生 野	1 3	5 3	2 0	8 6
奥銀谷	4	3 1	7	4 2
糸 井	1 3	4 0	8	6 1
大 蔵	1 2	4 0	1 1	6 3
和田山	1 5	4 9	1 0	7 4
東 河	5	8	4	1 7
竹 田	1 2	3 7	1 5	6 4
梁 瀬	2 4	3 9	1 7	8 0
栗 鹿	3	1 3	7	2 3
与布土	7	2 1	6	3 4
山 口	1 8	5 4	1 3	8 5
中 川	1 4	3 8	1 3	6 5
年代別計	1 4 0	4 2 3	1 3 1	6 9 4

●配達方法

朝来、和田山、山東各地域センターは民生委員さんに依頼

生野地域センターは社協職員が生野小学校6年生児童と一緒にお届け

●事業効果

①お誕生日祝いの花を持参し訪問する事で、お話しの中から出てきた困りごとや問題に対して相談機関につなぐことができた。

②生野小学校では「福祉ボランティア」として誕生日訪問を月2回社協職員と訪問。
高齢者と児童を繋ぐ事業にもなっている。

③糸井小学校では6年生児童がお手紙を書き、お花と一緒に民生委員さんに届けてもらっている。今年度は季節ごとに折り紙で小物を作るなど工夫を凝らし事業に協力いただいた。お届けした方もとても喜ばれていた。



【福祉教育活動助成事業】

共同募金を財源とし、市内各校に対して福祉の心を育む福祉教育活動の推進を目的とした助成金を交付した。

福祉教育活動の取組みが地域とのつながりや連携を深め、より充実するよう前年度の申請にはない、新たな取組みに対して「チャレンジプラン」として助成をおこなった。

また、職員を車いす体験授業などの講師として学校へ派遣するなど、様々な支援をした。

①助成内容

区 分	校 数	助 成 額
小 学 校	9 校	289,000 円
中 学 校	4 校	120,000 円
高 等 学 校	2 校	93,000 円
特別支援学校	1 校	29,500 円
合 計	16 校	531,500 円



小学校での車いす体験授業の様子

②活動助成の内容（主なもの）

- ・福祉体験学習（車いす、アイマスク、点字、手話など）や回収活動
 - ・・・車いすやアイマスク体験を行い、高齢者や障がい者への理解を深める。
- ・高齢者施設や子ども園との交流（訪問、学校行事への招待など）
 - ・・・ケーキやお菓子などを手作りし、届けて交流。
- ・前年度にない事業への申請
 - ・・・インクルーシブ教育の一環として『わだやマーケット』における「キッズコーナー（高校生による絵本の読み聞かせ）」や和田山特別支援学校の生徒と一緒に来場者への飲み物提供を行う「カフェ事業」

※インクルーシブ・・・「あらゆる人が孤立したり排除されたりしないように援護し、社会の構成員として包み、支え合う」という社会政策の理念を表す。

③次年度に向けて

現在の申請事業内容として、「老人クラブとの三世代交流」、「高齢者施設訪問」、「地域交流（季節行事）」が多く、人材育成や福祉の啓発などの学習への申請が少ない現状にある。

次年度の取り組みとして、共同募金のより有効な活用及び啓発を行っていくため、『福祉教育の人材育成や福祉の啓発を主とした学習』への助成へ転換していくことを検討する。

【ボランティア活動推進共済補助事業】

各地域センターセンターでは「兵庫県ボランティア市民活動災害共済」の加入窓口として広報・加入受付・掛金収受・事故初期対応など行った。

また、朝来市ボランティア市民活動センターに登録しているボランティアのグループ及び個人に対して、社協が共済掛金一人 500 円のうち 200 円を負担し、活動の支援をおこなった。

① 地域センター別加入実績

地域センター	生 野	和田山	山 東	朝 来	本 部	計
加入グループ数	13	44	31	18	10	116
加 入 者 数 (名)	151	412	277	143	769	1,752
個人加入者数 (名)	2	2	0	1	11	16
加入者数合計 (名)	153	414	277	144	780	1,768

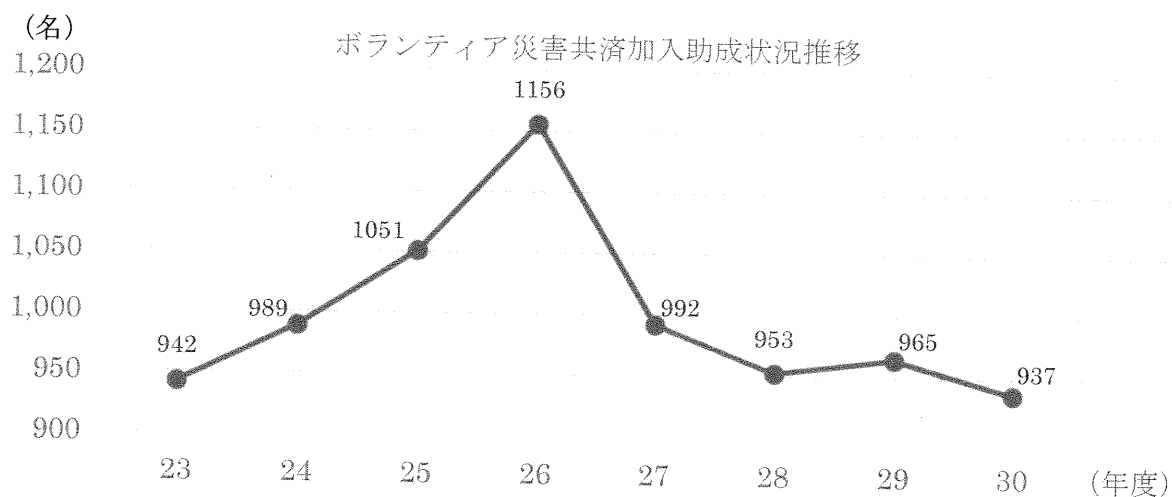
※本部の個人加入者は、倉敷市真備町災害ボランティア参加者。

② 年度別実績（金額は社協負担額）

年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
助成人数(名)	942	989	1,051	1,156	992	953	965	937
金額(円)	189,300	197,800	210,200	267,200	198,400	190,600	193,000	190,700

※26 年度は、災害ボランティア参加者（全額社協負担 120 名）を含む。

30 年度は、災害ボランティア参加者（全額社協負担 11 名）を含む。



【地域応援助成事業】

	助成メニュー	事業内容
1	わがまち食堂応援助成 合計 260,000 円	地域で食堂事業を開催し、世代間交流の機会を増やすことにより地域の支え合い、助けあいづくりを推進していくことを目的とする。 実施区：生野町川尻区 和田山町西土田区 和田山町中区 山東町大垣区 山東町東区 山東町森区 山東町末歳区
	《成果と課題》区内で事業を行うことにより、世代間交流をすることができ、赤い羽根の共同募金配分金からの助成であることを知っていただいた。世話役の方の負担がかかり過ぎない実施の仕方を提案していく。	
2	ご近所・助けあい応援助成 合計 213,500 円	地域の気になる方に対して、日常生活において簡単なお困りごとを区民で助けあうことを目的とする。 実施区：生野町栃原区 和田山町宮内区 和田山町東河地区 石田区
	《成果と課題》先駆的に支え合い体制づくりをされており、それぞれの地域特性に合った取り組みをされていた。このような取り組みを市内に普及していく為、継続的に動向を把握し、CATV や広報誌で啓発していく。	
3	チャレンジ応援助成 合計 200,000 円	地域住民を対象とし、住民の福祉意識を高める活動または新たな取り組みにより地域の支え合い促進などの効果が期待できる活動に該当する申請者提案型の助成プラン。 実施区：生野町黒川区 和田山町内海区 山東町野間区 上八代区
	《成果と課題》区のやってみたいこと（休耕田を利用した特産物の生産・健康カフェ・支え合い事業等）を自由に取り組むことができ区民の方に喜んでいただいた。区内の要援護者等の誰もが楽しむことができるような工夫が必要である。	
4	ぷちサロン活動応援助成 合計 696,500 円	参加する地域住民が 5 名以上でそのうち 65 歳以上が半数以上を占めているグループは実績に応じて助成金 2,000 円を上限に 100 円単位で助成する。助成回数は年度内 10 回を上限とする。 実績 381 回
	《成果と課題》手軽に助成が利用できると区民の方から好評いただいた。市内の普及を増大させるために色々な形のぷちサロンを提案する。	

《総事業費》1,370,000 円

【福祉機器貸出事業】 (各地域センター)

各地域センターにおいて、短期に限り、車いす・松葉杖を無料で貸し出す事業。本年度は車いす52件、松葉杖15件の貸し出しを行った。

各地域センター別貸出し状況 (件)

福祉機器名	生野	和田山	山東	朝来	合計
車イス	3	32	8	9	52
松葉杖	1	8	4	1	14

【介護用品販売事業】

各地域センター窓口で、紙おむつ・尿とりパッドなどの介護用品販売を行った。ご利用者のニーズ対応に努める為、「業務用」商品を取扱うことでより安価で提供した。

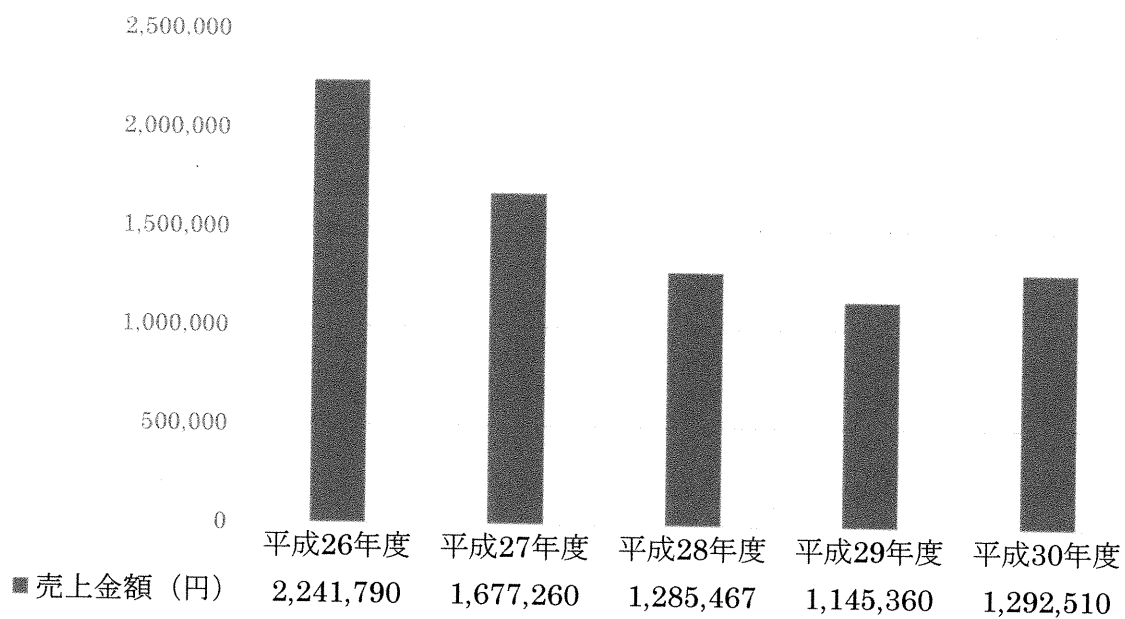
また、販売時の会話の中から、その方にあった介護用品を紹介したり、介護時の困りごと等を聞くこともできた。今後はより市民の方に寄り添い、困りごと等を解決できるよう関係部署と連携することも必要である。

今年度より、各地域センターで月末在庫を確認し、在庫移動により手持ちの介護用品を有効に販売することができた。

《各センター別販売個数》(H30.4～H31.3) (件)

生野地域 センター	和田山地域 センター	山東地域 センター	朝来地域 センター	販売総数
250	153	208	450	1,061

《売上年次推移》



【あさごふれ愛の郷あおぞら 生活介護事業】

1、利用状況

30 年度開所日 244 日

① 利用率

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
利用率	89	80	80	79	74	73	76	80	79	77	78	79

30 年度平均利用率 79%

29 年度平均利用率 83%

*利用率の低下の原因

身体的な理由により、5 月から 1 名 8 月から 1 名のご利用者が他事業所への利用になったことがあげられる。

2、主な取り組み

- ・「あおぞらオリジナルカレンダー」を就労 B 事業所と共同で制作した。
- ・個別活動の重視と丁寧な介助や支援に取り組んだ。
- ・季節行事や月毎の行事、又グループでの外出行事を実施した。
- ・関係機関と連携し個別の支援に努めた。

3、地域活動と企業等の支援

- ・地域の文化祭に出展参加した。
- ・地元中学校のボランティアの受け入れや地元特別支援学校の実習の受け入れを行った。
- ・イオン和田山店様から「イエローレシートキャンペーン」による物品の贈呈を頂いた。
又、毎年恒例となっているクリスマスプレゼントを頂いた。
- ・山東民生委員様との交流をクリスマス会を通じて行った。

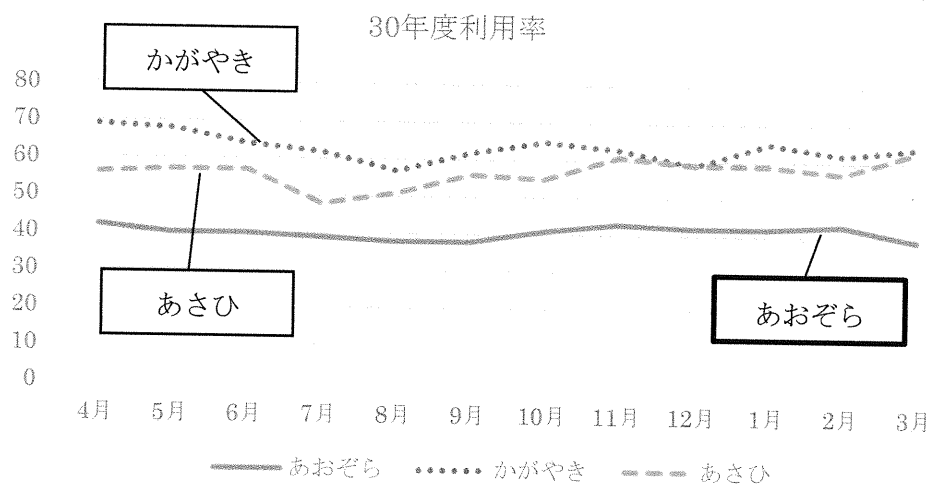


【あさごふれ愛の郷 就労継続 B 型事業所】

1. 利用状況

●30 年度開所日数 244 日／年

●30 年度利用率(%)



<30 年度平均> あおぞら 41% かがやき 63% あさひ 57%

<29 年度平均> あおぞら 48% かがやき 70% あさひ 55%

2. ご利用者平均工賃

<30 年度平均工賃> 7,468 円(31 年 2 月支給分まで) 賞与はのぞく

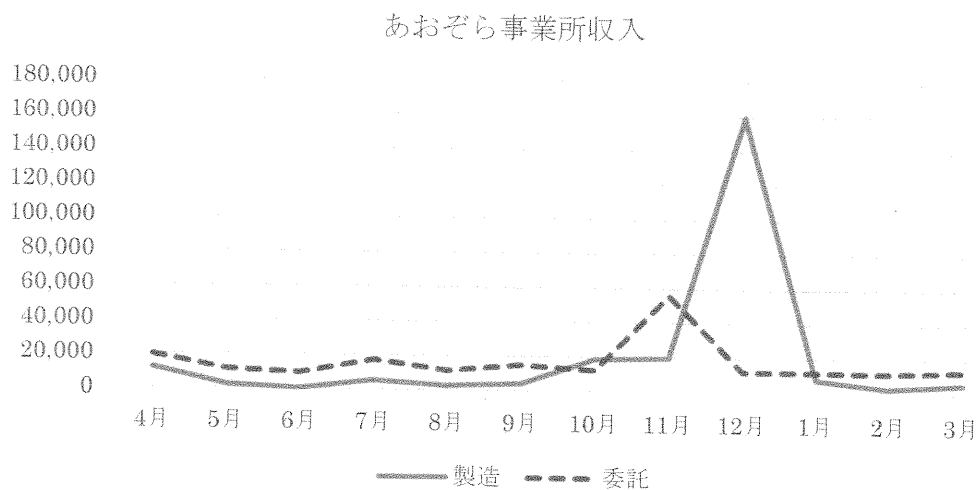
<30 年度賞与> 夏期 2,000 円～5,000 円 冬期 3,000 円～10,000 円

<29 年度平均工賃> 7,034 円 賞与は除く

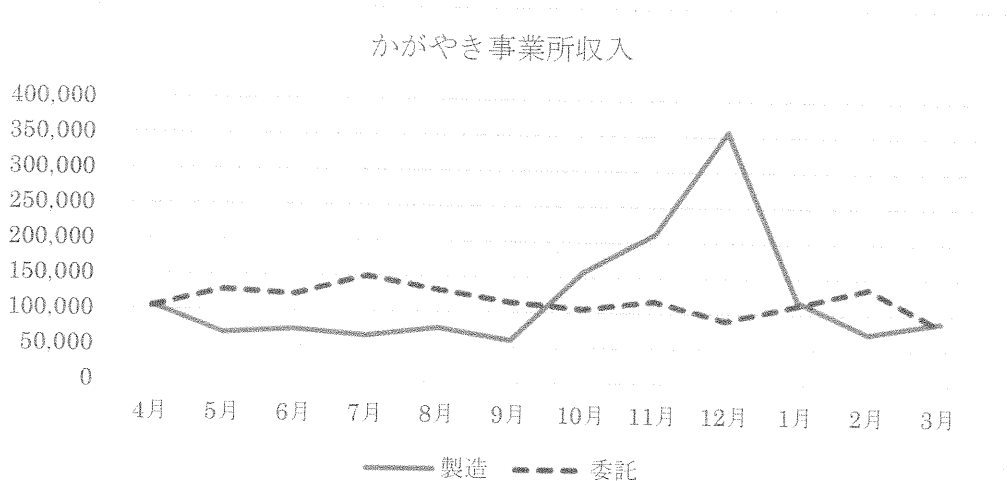
<29 年度賞与> 夏期 3,000 円～10,000 円 冬期 3,000 円～10,000 円

3. 収入状況

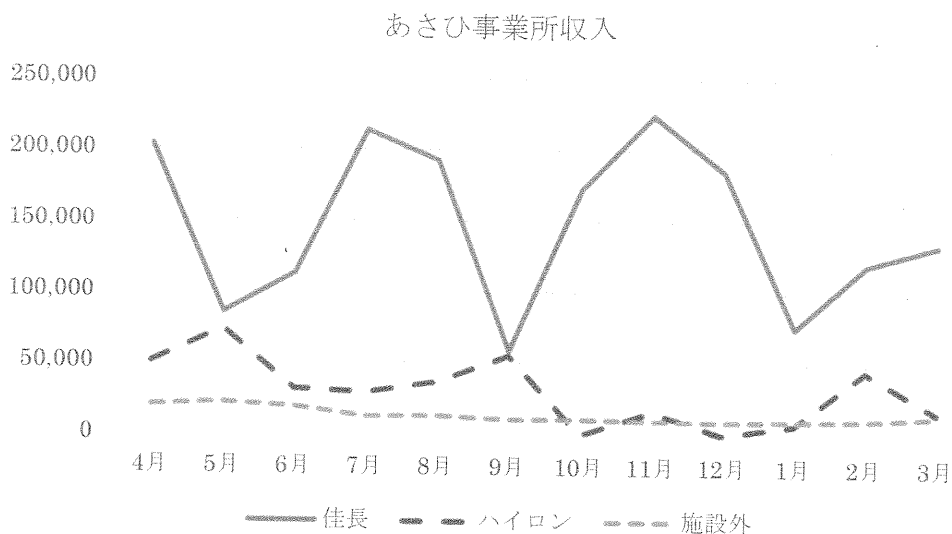
●あおぞら(委託作業に施設外就労を含む)



●かがやき(委託作業に施設外作業を含む)



●あさひ(委託作業のみ)



4. 今年度の活動と今後の課題

●あおぞら事業所

- ・手すき和紙を使った7年目となる30年度オリジナルカレンダーや名刺収入が作業収入の主となっている。
- ・委託作業では安定した受注が難しく、提供できる作業の確保と利用者確保に課題を残す

●かがやき事業所

- ・12月末に第2和生園さんとのコラボ商品として、かがやきのクッキーをふるさと納税返礼品に加えていただいた。全国規模で注文があり今後に期待している。売り上げ増に向けて、販路拡大や適正価格への値上げが課題である。
- 今年度はご利用者の特性に応じた作業提供やステップアップを目指した支援を心掛けた。



●あさひ事業所

- ・委託作業に集中して従事し、収入増を目指した。ご利用者すべてが箱折をしていただけるよう支援し、様々な種類のものに対応できるようにしていただき個々の工賃アップを目指した。
- ・長年在宅で過ごされていた方々の利用もあり、今後も仕事や余暇活動を通して毎日を快活に過ごしていただけるようにサービスを提供。

【YOU・愛センター 放課後等デイサービス】

1 利用状況 定員15名（3月31日現在）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
開所日数	25	27	26	26	27	25
利用率	66%	66%	66%	66%	73%	66%
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開所日数	27	26	24	24	24	26
利用率	66%	66%	66%	60%	66%	66%

●年齢別

小学生・小学部	19人
中学生・中学部	5人
高校生・高等部	9人

●学校別

朝来市内小学校	13人
朝来中学校	1人
和田山特別支援学校	19人

2. 30年度の取り組みと今後の課題

四季折々の自然に囲まれた YOU 愛センターでは、桜並木の土手の散歩やプール遊び、いちようやもみじの落ち葉拾い、雪遊びなど身体を動かしながら活動的に過ごした。あそびの中では学習スキルなどにも取り組み、月1回の音楽療法では色々な楽器に触れ合いながら、放課後や土祝日の時間を有意義に過ごした。子どもの成長に伴いながら、職員のスキルアップを目指し、質の向上とサービスの向上に努めたい。

【あさごふれ愛の郷のぞみ宿泊訓練 社協独自事業】

1、利用者の状況

●利用者数

実利用者数	延べ利用者数	訓練回数	職員配置数
16 人	79 人	20 回	30 人

●年齢別

18～25 歳	26～30 歳	31～40 歳	41 歳～50 歳	51 歳～60 歳
4 人	2 人	9 人	0	1 人

2、取り組み

*毎月第2と第4金曜日～土曜日を訓練日と固定し取り組んだ。

*担当者が前日までにメニューを決め近隣のスーパーで買い物をして準備をした。

*調理では毎回変わったメニューをするのではなく、より現実的に一人でも作れるような簡単メニューを中心に取り組んだ

*実生活の中で自分の力で出来ることを一つでも増えていくように支援をした。

*共同生活の中でそれぞれの役割を持って頂き、協力やルールを意識しながら取り組んだ。

3、成果

この事業は社協同時の事業でありその財源の一部を「赤い羽根共同募金配分金」から充当されている。今年度新たに6名の利用希望者が増えた。

将来に向けての必要性の理解や、何よりご利用者が楽しみに臨まれていることが一番良かったこととして挙げられる。



【訪問介護事業】 (いきいき介護センター)

自宅での日常生活の援助

ホームヘルパーが介護の必要な高齢者や障害者の居宅を訪問し、身体介護サービスや生活援助サービスを提供した。

利用者の状況に応じたサービスを実施した。

■ 主なサービス内容

《身体介護の例》	・ 食事介助・排泄介助・入浴介助・移動介助
《生活援助の例》	・ 調理・洗濯・買い物・掃除

■ 体制

H30 年度

	人数	資格取得状況	
		介護福祉士	2 級
サービス提供責任者	4	4	—
訪問介護員	12	11	1

ヘルパー人数 計 16 名 (参考：昨年 17 名)

■ 講師派遣及び研修・実習の受け入れの状況

	受け入れ先	日時	内容	人数
実習	兵庫県立日高高等学校	7 月 27 日～8 月 10 日	訪問介護実習	4

■ 介護度別利用者数

(H30/4/1～H31/3/31)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
要支援 1	10	10	10	10	9	11	11	11	10	12	10	10	124
要支援 2	14	14	15	14	15	14	15	13	13	12	11	12	162
要介護 1	23	21	22	23	25	24	26	24	23	23	22	24	280
要介護 2	11	12	9	9	7	7	7	10	8	9	8	10	107
要介護 3	6	8	7	7	9	9	6	5	7	7	6	6	83
要介護 4	10	11	13	11	16	13	12	11	12	13	13	15	150
要介護 5	11	10	10	11	12	11	11	10	10	11	12	13	132
合計	85	86	86	85	93	89	88	84	83	87	82	90	1038

■ 校区别支援対象人数

H31.3.31 現在

校区	生野	奥銀谷	糸井	大蔵	和田山	東河	竹田	梁瀬	栗鹿	与布土	山口	中川
要介護	6	1	4	8	7	1	7	12	3	6	9	4
要支援	2	0	3	3	0	0	1	6	2	1	1	3
自立支援	2	1	3	4	6	2	3	7	0	1	3	1

■ 取り組み

月に2度ミーティングを行い、情報共有を密にすることで統一したサービスや利用者の立場に立った支援が提供できるよう取り組んだ。積極的に研修に参加し、習得したことをミーティングにて皆で実践し知識・技術のスキルアップを図った。感染予防対策として年2回感染予防対策委員会が開催する研修に参加し、毎月のミーティングで感染予防対策の確認を実施した。

【養育支援事業】

事業の概要とし、子どもへの安全な養育環境の確保及び養育者への指導と家庭の抱える養育上の問題の解決を図り、児童福祉の推進と児童虐待の未然防止を目的として2名の方の環境整備、掃除、ご利用者のお世話や支援を実施した。

《研修》



《移動支援》



【障害者総合支援法事業】 (いきいき介護センター)

障がいのある方が出来るだけ自立した生活がおくれるように支援し、すべての人が住み慣れた地域で安心して暮らせる社会を実現していく仕組みである。

この支援法の中で、以下のサービスに対応した。

サービス名	利用者数	サービス内容
居宅介護 (ホームヘルプ)	30	自宅で入浴や排泄、食事の介護など自宅での生活全般にわたる介護サービスの提供
重度訪問介護	0	重度の肢体不自由があり、常に介護が必要で自宅での介護から外出時の移動支援までを総合的に行う。
行動援護	0	知的障害、又は精神障害により行動が困難で常に介護の必要な人に、外出時の移動の支援や行動の際に生じる危険回避の為の援護等を行う。

(市が行う地域生活支援事業)

サービス名	利用者数	サービス内容
移動支援事業	15	自立支援給付の対象とならないケースでの外出時の円滑な移動を支援し、自立生活や社会参加を促す。

【居宅介護支援事業所】

◆居宅介護支援事業の状況

居宅介護支援事業（ケアマネジメント）とは、介護を必要としている人が適切なサポートを受け、自立した生活を送れるように支援する事業である。各種申請の代行や介護保険サービス利用を依頼された時の窓口となり、ご利用者、ご家族の困りごとを一緒に考え、住み慣れた地域での生活を継続していけるように支援し、必要な介護保険サービス事業所との連絡・調整を行ってきた。現状としては、要介護1～要介護2の利用者が多い。特養入所基準が要介護3以上となったこともあり要介護4～要介護5の利用者は入所する時期が早くなった。また、状態が急に悪くなり入院することも多く、支援する期間が短い傾向にある。

◆介護予防・日常生活支援総合事業の状況

介護予防・日常生活支援総合事業とは、介護予防の目的である「要介護状態になることを防ぐ」「要支援・要介護状態の悪化を防ぐ」ために支援するものであり、市が委託した指定介護予防支援事業者の介護支援専門員がケアマネジメントのプロセスに基づいて行うものである。現在、通所リハビリ・訪問リハビリ・福祉用具貸与・短期入所生活介護等の利用は介護予防支援、通所介護・訪問介護のみの利用は日常生活支援総合事業と分けられており、通所介護・訪問介護のみの利用の場合は要介護認定を持っていなくてもサービスの利用が可能である。そのため、認定更新時期には、その利用者に認定が必要かどうかを見極める力も必要となる。

◆職員研修状況

主任ケアマネジャーを中心とした朝来市ケアマネジメント支援会議に参加することで事例検討による振り返りの技術を学ぶことができた。また朝来市内の医療と介護の連携会議や朝来市主催の自立支援型地域ケア会議など様々な研修会、勉強会にも積極的に参加した。各内容は事業所内での週1回の定期ミーティングで報告し合い、共有することで専門知識を深めていった。また、事業所内でも毎月、事例検討会を行い参加者全員で事例を再アセスメントをすることによって、事例提供者が問題を解決していく手立てに自分で気づいていけるように、ケアマネジメント技術の向上に向けて取り組みを行っている。そのうちの2回は、市内の他事業所の主任ケアマネジャーであるスーパーバイザーを迎え、事例検討と一緒に参加してもらうことで別の視点からの意見を取り入れることができた。

◆活動状況

経済的に困難なケース、家族に介護力が弱いケース、身寄りがないケース等の処遇困難なケースにも積極的に取り組んでいるため、地域包括支援センターと一緒に地域ケア会議を行い、区長や民生委員等、地域の方と共に同じテーブルで話し合う機会も多くなった。また、他部署の職員にすぐに相談できる環境にあるという強みもありスピーディな対応で相談業務に取り組むことができた。今後もさらにこういった処遇困難なケースが増えていくことが予測される。病院との入退時の連携、介護保険サービスの利用や、施設利用時の決定や判断を誰がどこまで責任を持って対応していくかが大きな課題である。またこの先も続くであろう高齢化社会に向けて生活支援サービスを充実させるために、地域資源の開発やネットワークの構築も必要であり、地域との繋がりを作りながら課題解決に向けて一緒に取り組んでいく姿勢が求められている。

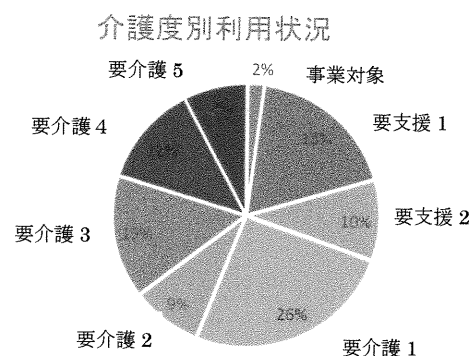
【デイサービスセンター かしのき園】

朝来市和田山町宮田 187-4

TEL 672-0405



- ★今年度は老朽化していたウッドデッキの改修をした。
改修を機に車いすのご利用者にも楽しんでいただけるように移動式プランターを製作し、みなさんで植物や野菜・果物を育てて収穫まで楽しむことができた。
また、お天気の良い日にはかしのき園カフェを開き太陽のしたで、お茶を楽しんだ。
- ★介護度別利用状況としては、要介護1のご利用者が最も多く26%を占めている。
続いて要支援1と軽度なご利用者、そのあと要介護3・4と続いている。



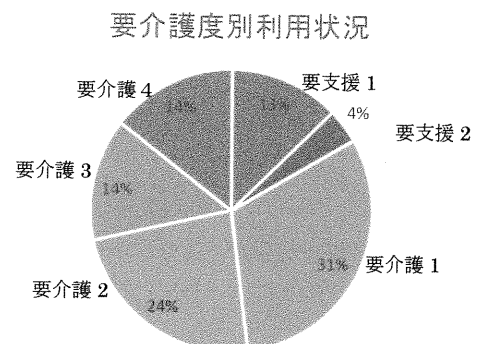
【宅老所ふらっと】

朝来市立脇 4-1

TEL 677-1114



- ★「文化祭」に出展することを目標に作品作りに取り組んでいる。全体で作り上げる作品だけでなく個別作品を取り入れ
お一人お一人に合わせて提供している。目標がある事で、やりがいを持たれ達成感を感じていただいている。
- ★ 介護度別利用状況としては要介護1と要介護2のご利用者で半数を占めており。
今年度要介護5の方のご利用はなかった。



【小規模多機能施設 ひなたぼっこ】 朝来市生野町口銀谷 418-5 ☎079-679-3006



「貼り絵作り」

定員は 18 名。少人数で家庭的な雰囲気。食事作りや後片付け、洗濯畳みや掃除、貼り絵の材料作りなど様々な役割を担っている。レクリエーションでの貼り絵は、地域の老人クラブの方々と一緒に取り組む。出来上がれば読み聞かせボランティアに寄贈している。読み聞かせボランティアの皆さんが「ひなたぼっこ」を紹介して下さり色々な所で知って頂く機会が出来た。「自分に出来ること」と常に考え、いつもと変わらない日常生活がいつまでも送れるように、自宅で安心して過ごして頂けるよう努めている。

【小規模多機能施設 おくらべ】 朝来市和田山町宮田 187-6 ☎079-673-3060



「AED 設置されました」

定員は 25 名。

・「火災通報装置」設置。火災時、南但消防本部に自動通報する装置。すでに設置されているスプリンクラーと併せて、重度のご利用者の泊まりを安心して受けることが出来るようになった。また昨年に引き続き、朝来市一斉避難訓練に参加。地元高瀬区の方に避難誘導をお願いした。

・「AED」設置。福祉バザーの売り上げをもとに、「おくらべ」と「宅老所えんや」に 2 台設置していただく。いざという時に対応できるよう、職員研修を実施した。玄関に設置してあるので、地域の方にも広く利用してもらいたい。

【小規模多機能施設 ひばり】朝来市山東町溝黒 123-2 ☎079-676-5511



「介護浴槽が設置されました」

定員は 24 名。「ひばり」からは四季折々の自然たっぷりの景色が見られ、隣には「照福子ども園」があり朝から子供たちの可愛い声が聞こえ、お散歩の途中に立ち寄って可愛い顔を見せていただきいつもご利用者は笑顔と元気をもらわれている。

9 月には座ったままの姿勢で入浴できる介護浴槽を設置し、今まで車いすのご利用者や浴槽に浸かれなかったご利用者がお湯に浸かれるようになり「お湯に浸かると足や腰の具合が良くなった」と喜ばれている。

【小規模多機能施設 宅老所えんや】朝来市立野 164-12 ☎079-678-1152



「旬の食材を使って」

定員は 24 名。「えんや」では、季節ごとに旬の食材が手に入る。

今年も筍・ヨモギ・お茶・えんどう豆などをご利用者と処理し、昼食作り・おやつ作りを行った。今後にご利用者に季節をたくさん感じていただける取り組みを通して、ご利用者がほっと安心できる憩いの場、安らぎの時間を作っていきたい。

また、ご利用者が住み慣れた地域・自宅での生活が継続できるよう、地域との連携を目指している。立野地区の「朝来市一斉避難訓練」や民生委員会等に参加した。